

(文部科学省委託事業)

平成25年度教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業

報 告 書

—研究テーマ—

学力向上・生徒指導の充実を支える教員の
キャリア成長に合わせた教員研修プログラムの開発

平成26年3月

信州大学

も く じ

I. 調査研究の内容・方法・組織	1
II. カリキュラムマップの開発	5
(1) 研修実施体系	5
(2) 研修体系に基づいた到達目標	6
(3) 研修体系に基づいた到達目標細案	7
(4) 研修体系に基づいた研修のあり方について	14
(5) 研修体系に基づいた教育センターの研修講座について	22
III. デジタルポートフォリオの開発	23
(1) 教師力チェックリスト	23
(2) デジタルポートフォリオの基本設計	27
(3) デジタルポートフォリオのサイト上の基本画面	29
IV. 教育実践情報共有システムの改修	39
(1) 授業分析のための手引きについて	39
(2) 授業記録について	39
V. 資料編	

I. 調査研究の内容・方法・組織

(1) 調査研究の概要

教育に対する社会的要請の多様化による教員の資質の向上が急務とされる中、初任者から熟練者と呼ばれる世代まで、経験年数に応じた教員のキャリア形成に関わって、OJT型研修の充実や複数年継続研修等、これまで以上にマネジメント能力の開発も含めて、教員個々の特性を生かすキャリアデザインに応じた研修プログラムの開発が求められている。また、学力の向上は生徒指導力の充実に支えられた日々の教育実践によることから、特別支援教育を含む子ども理解等の研修の充実も、急務とされている。

そこで、本研究では信州大学は長野市との連携協定に基づき、平成24年度から施行されている長野市教育振興基本計画の具現化に向けて、基本計画の重点課題である教員の教育力の向上に関して、これまでに信州大学と長野市教育委員会との連携で開発し実践している教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの実績を踏まえて、教師自身が自己の特性に応じたキャリアデザインを設計し、自主的計画的に研修を展開し、自らが教員資質向上を目指す研修カリキュラムの開発を行った。

具体的には、自主的研修習慣を身につけ、授業実践にかかわる力量の向上と学級・学校経営等マネジメントにかかわる教員の資質の向上を図るために、教育実践ポートフォリオを活用し、初任時からおよそ25年経験まで一貫した教師各自の経験に応じて、授業力や生徒指導力、特別支援教育にかかわる知見並びにマネジメント能力等にかかわる内容の研修を、段階的に組み込んだカリキュラムを開発した。

同時に、校内のみならず教育委員会単位でのOJT型研修の充実を図り、いつでもだれでもが授業分析や教材開発等にかかわる研修を可能にし、授業力向上を図れるよう、平成22年度から開発してきている教育実践情報の共有システムを改善した。

(2) 調査研究の内容

- ① 長野市教育委員会と信州大学とでそれぞれ担当業務とする委員会を設置し、連携協力体制を整備し、カリキュラムと教材の作成を共同で行うとともに、信州大学の持つ教育資源を研修講座等に活用する方策を検討した。なお、長野市教育委員会の担当部局は、学校教育課・長野市教育センターとし、信州大学の担当部局は、全学教育機構教職教育部・教育学部附属総合教育実践センターとし、長野市教育委員会の教育委員長、教育次長、教育センター長、主任指導主事1名、指導主事9名と、信州大学の教員が出席して、長野市教育センターを会場に1～2回のペースで検討会議を開催した。
- ② 中核市として実施してきたこれまでの長野市教育センターの研修を抜本的に見直し、研修の目的・内容・方法・評価・システム等を教師のキャリアデザイン設計を意識したOJT型研修へと発展させていく課題探究型の研修の実現という視点からカリキュラムを開発した。

- ③ 長野市教育委員会と信州大学との連携協力により、教師のキャリアデザイン設計を意識させるための、教育実践ポートフォリオシステムの開発を行った。また、OJT型の課題探究研修が実践できるよう教育実践情報共有システムについては、初任研での活用を中心に改修を実施し実証研究を実施した。
- ④ 指導法にかかわる研修として、授業記録の分析を行い資質向上を目指すデジタルコンテンツを作成するため、長野市教育センター指定の公開研究授業を収録し教材を作成した。

(3) 調査研究日程実績

日程	事業の内容
6月28日	第1回研究協議会…信州大学と長野市教育委員会並びに長野市教育センターと推進日程・内容等について協議した。(長野市教育センター：14人)
7月8日	第1回研究会…現行カリキュラム等の見直した。(長野市教育センター：14人)
7月22日	第2回研究会…現行5年・10年経験者研修の見直しを行った。(長野市教育センター：14人)
7月29日	第3回研究会…カリキュラムマップの検討を行った。・ポートフォリオの設計を検討した。(長野市教育センター：14人)
8月下旬 から 1月下旬	情報収集のための県外視察 仙台市教育委員会1名(8/26-27)、京都市教育委員会1名(9/30-10/1)、 つくば市教育委員会1名(11/21-22)、国立特別支援教育総合研究所1名(1/30-31)
8月5日	第1回研修会…初任者に対するキャリアデザインに関わる研修を実施した。 (長野市教育センター：38人)
8月6日	第2回研修会…初任者に対する生徒指導とマネジメントに関わる研修を実施した。(長野市教育センター：38人)
9月2日	第4回研究会…ポートフォリオシステム開発について協議した。(長野市教育センター：14人)
9月26日	第5回研究会…開発カリキュラムについて検討した。 (長野市教育センター：14人)

10月4日	第3回研修会…初任者教育実践共有システムの研修を実施した。 (長野市教育センター：38人)
10月8日	第6回研究会…カリキュラム全体を検討した。(長野市教育センター：14人)
10月22日	第7回研究会…カリキュラム全体を検討した。(長野市教育センター：14人)
11月26日	第4回研修会…初任者 学力向上に関する授業改善研修を実施した。 (長野市教育センター：39人)
11月11日	第8回研究会…10年経験者までの研修内容を検討した。 (長野市教育センター：14人)
11月25日	第9回研究会…15年から20年経験者の研修内容を検討した。(長野市教育センター：14人)
9月～11月	第5回研修会…10年経験者の学力向上に関する授業改善研修を実施した。 (市内各公開研究授業校：39人)
12月17日	第10回研究会…研修内容を検討した。(長野市教育センター：14人)
12月25日	第11回研究会…10年経験者までの研修内容を検討した。 (長野市教育センター：14人)
1月8日	第12回研究会…15年から20年経験者の研修内容を検討した。 (長野市教育センター：14人)
1月10日	第6回研修会…OJT型校内研修の実施報告会を実施した。 (長野市教育センター：44人)
1月15日	第13回研究会…初任者研修の内容を検討した。 (長野市教育センター：14人)
1月29日	第14回研究会…25年以上経験者の研修内容を検討した。 (長野市教育センター：14人)
2月12日	第15回研究会…まとめに向けて協議した。(長野市教育センター：14人)

2月下旬	第7回研修会…10年経験者に対する生徒指導とマネジメントに関わる研修を実施した。(市内各校：39人)
3月10日	第2回研究協議会…研究のまとめを行った。(長野市教育センター：14人)

(4) 調査研究に関する実施体制

団体名	氏名	職名	実施体制・分担
信州大学	赤羽 貞幸	教務担当理事	事業責任者
信州大学	小山 茂喜	教授(全学教育機構)	事業推進担当
信州大学	東原 義訓	教授(附属教育実践総合センター長)	事業推進に係る実務担当
信州大学	庄司 和史	教授(全学教育機構)	カリキュラム開発
信州大学	谷塚 光典	准教授(教育学部)	研修支援カリキュラム開発
信州大学	荒井英治郎	准教授(全学教育機構)	カリキュラム開発
信州大学	田村 徳至	講師(全学教育機構)	庶務
信州大学	河野 桃子	講師(全学教育機構)	研修支援
信州大学	神谷真由美	講師(全学教育機構)	研修支援
長野市教育委員会	中村 正昭	教育次長	連携推進
長野市教育委員会	宇佐美 信	長野市教育センター長	カリキュラム開発
長野市教育委員会	塚田 智紀	指導主事	カリキュラム開発
長野市教育委員会	中村 努	指導主事	カリキュラム開発

II. カリキュラムマップの開発

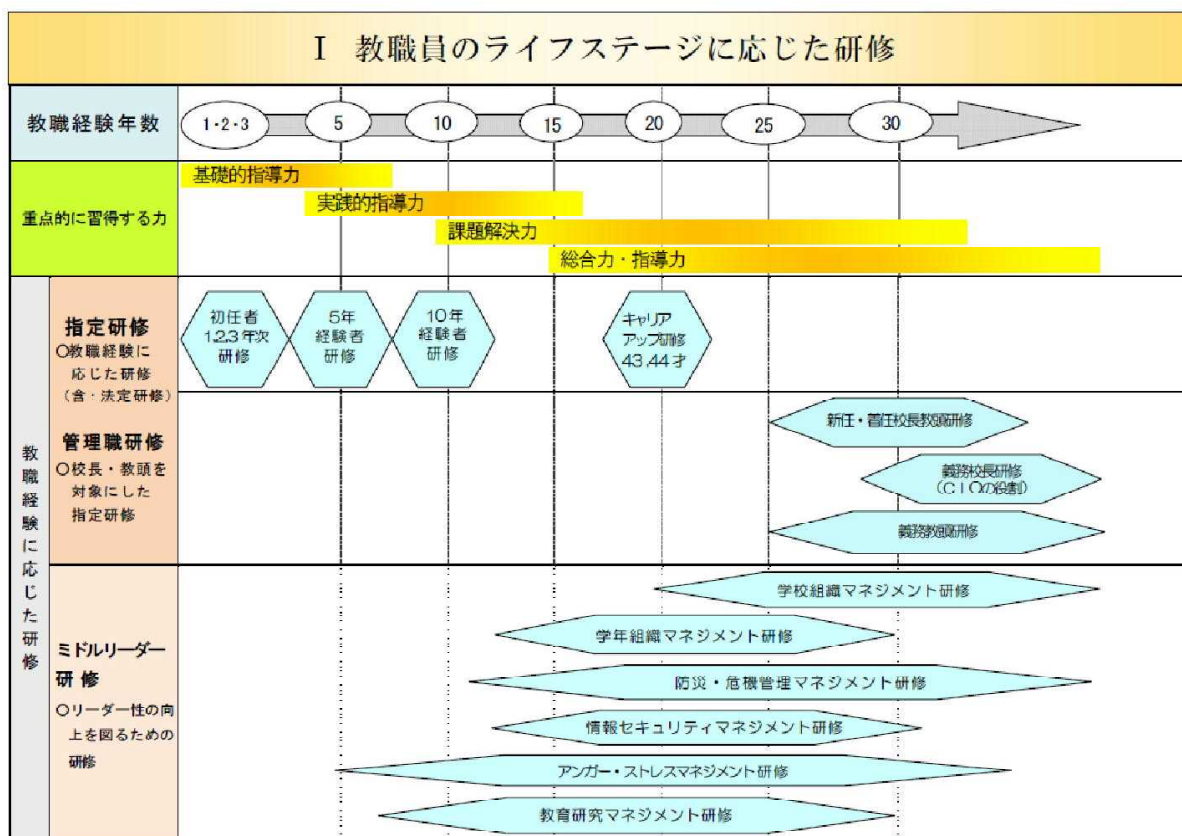
教育に対する社会的要請の多様化による教員の資質の向上が叫ばれる中、各自治体においては、地域の実態に応じて、さまざまなカリキュラムや研修教材が開発され、それらデータの多くが公開され、研修が展開されている。

そこで、本研究では、研修教材については、これまでに（独立行政法人）教員研修センターをはじめ多くの自治体の教育センター等で開発された教材を、フルに活用することで、内容の充実を図ることも視野に入れながら、中核市として実施してきたこれまでの長野市教育センターの研修を抜本的に見直し、研修の目的・内容・方法・評価・システム等を初任者から熟練者と呼ばれる世代まで一貫した教師のキャリアデザインという観点で再構成しようと試みた。

特に、経験年数に応じた教員のキャリア形成に関わって、OJT型研修の充実や複数年継続研修等、これまで以上にマネジメント能力の開発も含めて、教員個々の特性を生かして、自主的計画的に研修を展開し、自らが教員資質向上を目指す研修カリキュラムの開発を目指した。

(1) 研修実施体系

初任者研修から、定年退職するまでの、大きな枠組みの中で、教育センターが研修体系を設計することが、教員の資質向上（子どもたちの「生きる力」を育成する教職員の力量の向上）に資するという観点に立ち、学力の向上を図る研修・日々の教育実践に生きる研修・教育課題に対応する研修の3視点から、教職員のライフステージに応じた研修体系表を以下のように作成した。



(2) 研修体系に基づいた到達目標

(1) で示した教員のライフステージに合わせた研修体系を具現化するための、大枠を以下のように考え、到達目標を設定した。

○ 第Ⅰ期の目標

キャリア ステージ	第Ⅰ期(基礎形成期)				
	1年次	2年次	3年次	4年次	
内 容	必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得				
学 習 指 導	段 階	担当学年や担当教科を中心とした研修と実践	学年や教科等の幅を広げた研修と実践	長野市教育大綱を意識した研修と実践	
	重点活動	「1人1公開授業」 「授業参観と分析」	「道徳研究授業」 (1年次2年次合同)	「模擬授業研究会」 (1年次3年次合同)	「模擬授業研究会」
	授業設計 (含キャリア教育)	○担当教科・学年・道徳の学習指導要領の目標および内容を概ね理解している。 ○単元を見通した指導計画が立てられる。 ○1時間の簡易指導案が作成できる。	○担当教科・学年・道徳に関する学習指導要領の目標および内容に沿った指導計画が立てられる。 ○問題解決的な学習展開の授業構想を立てることができる。	○担当教科・学年・道徳において、年間を見通した指導計画が立てられる。 ○一人で学習指導案(フル)を作成することができる。	○地域にある素材を自ら積極的に教材化しようとしている。 ○様々な学習形態を日常的・計画的に授業づくりに取り入れることができる。
	授業実践	○子どもに分かる発問と板書を心がけている。 ○座席表に児童生徒の様子を記録しようとしている。 ○具体物や視聴覚教材を取り入れた授業づくりを意識している。	○児童生徒の学びのよさと課題を記録し累積していこうとしている。 ○担当学年の児童生徒の実態と指導要領の目標および徳目に沿った道徳の授業ができる。	○個人・ペア・グループ・全体など、目的や必要感に応じて、学習形態を変え、実践できる。 ○座席表を、目的に沿って活用しようとしている。	○導入・追究・まとめまでの時間設定を意識し、計画通りに授業の展開ができる。
授業分析 ・評価	○評価規準を理解し、通知票を記入することができる。 ○日々の授業の板書を記録したり、ノートや学習カードを見返したりしている。 ○師範授業の参観や他の授業研修会への参加を通して、自己課題に活かしている。	○児童生徒の学習意欲につながる評価方法を具体的に意識している。 ○授業記録のとり方やまとめ方・考察の仕方が概ね理解できる。	○自らの視点を明確にして授業参観に臨み、授業記録を取ることができる。 ○授業記録を基に、参観の視点、児童生徒の具体の姿に沿って分析をしようとしている。	○学習カードやノートの記述に対する助言や評価を日常的に継続し自己の授業分析に活かそうとしている。 ○自ら取り入れた授業形態の有効性について日常的にふり返ろうとしている。	

	段階	学級経営の基礎理解と実践	事例に基づいた実践の振り返りと学級経営の計画	チーム支援の実践	
学級マネジメント	児童生徒理解	○遊びを通して子どもたちと関わることができる。 ○学級の状態を把握する調査結果の見方がわかる。 ○学級内の人間関係づくりに有効なワークショップを体験する。	○遊びから見えてきたものについて事例検討する。 ○学級の状態を把握するための調査結果から支援策を考えることができる。 ○学級の状態に応じたワークショップを実践できる。	○子どもたちの変容に基づいて、その内面を分析することができる。	○カウンセリングマインドを理解し、児童生徒の気持ちに寄り添った支援ができる。
	生徒指導	○いじめ・不登校の未然防止と早期発見について学ぶことができる。 ○いじめや問題が行動があった時の初期対応について知ることができる。	○いじめ・不登校対応の事例を研究する。 ○いじめや問題行動が起きた時に適切な対応をすることができる。	○校内でのチーム支援について理解し、対応できる。	○連携外部機関について理解することができる。
	学級経営 (含地域・外部連携)	○学級経営の基礎基本が理解でき、実践できる。 ○家庭訪問、PTAの会議等で保護者と適切な対応ができる。	○適切な保護者対応について事例から学ぶことができる。 ○地域の教育資源について学ぶことができる。	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。
	安全管理 健康管理	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校事故の防止と安全対策について学び、対応することができる。
	段階	特別支援教育の基礎理解と実践			
特別支援教育	特別支援教育の理解	○知的発達の遅れ、発達障害児の基礎的理解をする。	○知的発達の遅れ、発達障害児、その他の障害の基礎的理解をする。	○気になる子の保護者への伝え方を学ぶ。	○気になる子、障がい児童生徒に対する、支援計画の立て方を学ぶ。
	特別支援教育の実践	○支援を必要とする児童生徒への個別対応を常に考えている。	○ユニバーサルデザインの環境づくり、授業づくりをする。 ○インクルーシブ教育を理解し実践しようとしている。	○気になる子の記録を蓄積し、記録とともに、学校での気になる行動を保護者に伝える。	○気になる子、障がい児童生徒に対する、個別の指導計画を作成し、それをもとに支援にあたる。

教師としての理念と責務	段階	教師としての基本に関する研修と実践		教師として自己を高めようとする研修と実践
	法規・法令・懲戒	○教育公務員関係の法令や条例、非違行為と懲戒について理解している。 ○教育公務員としての、適切な挨拶や言葉遣い、身だしなみを理解し、進んで実践できる。	○体罰を中心とした懲戒について理解し、適切な指導ができる。	○個人情報保護や情報モラルについて理解し、適切な指導ができる。
	教育理念 教育哲学	○教職に対する強い情熱をもち、専門性を高めようとしている。 ○自分の理想としている教師像を模索している。		
	校務の遂行	○学校組織の一員として、校務の遂行について理解し、適切な処理ができる。		○職員会や学年会、教科会の意義を理解している。

○第Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期、第Ⅴ期の目標

キャリア ステージ	第Ⅱ期 (基礎力活用期1)	第Ⅲ期 (向上期1)	第Ⅳ期 (向上期2)	第Ⅴ期 (充実期)
	5年～9年	10年～15年	16年～20年	21年以上
内容	向上期に必要な知識及び技能の習得	充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能をの習得	充実期を前提とし、専門的な知識習得	
学習 指導	段階	長野市教育大綱を意識した授業実践	長野市教育大綱の具現をめざした授業実践	
	重点活動	「実践事例の紹介と参観」(1人1公開)	「教育大綱公開授業」(1人1公開) 3年次・5年研・10年研の授業参観と分析	
	授業設計 (含キャリア教育)	○担当教科・学年・道徳に関する専門的な知識や技能を取り入れようとしている。 ○研究の仕方を理解して、研究の計画が立てられる。 ○教育大綱の理解をして授業構想が立てられる。	○校内研究のリーダーとなって、研究推進や計画に関わって指導できる。	
	授業実践	○児童生徒個々の実態に応じた授業展開を実践し公開する。	○長野市教育大綱と児童生徒の姿を結びつけた授業展開を公開する。 ○児童生徒の実態や求めに応じて、臨機応変に指導計画を修正することができる。	

	授業分析・評価	○評価問題を自作し、客観的に評価をすることができる。	○評価に関わって研究推進し、校内に広めたり助言できる。		
学級マネジメント	段階	チーム支援の実践	ミドルリーダーとしての学級マネジメント	学年マネジメント	学校マネジメント
	児童生徒理解	○カウンセリングマインドを理解し、児童生徒の気持ちに寄り添った支援ができる。			
	生徒指導	○自分の役割を理解し、チームで対応することができる。	○他機関との連携を図ることができる。	○生徒指導主事の役割を理解し実践できる。	○いじめ・不登校に関わる学校マネジメント
	学級経営（含地域・外部連携）	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。	○地域や保護者と連携した学習や活動の授業公開や地域での発表ができる。		
	安全管理 健康管理	○非常時の組織的行動と役割等を理解し、適切に対応することができる。			
特別支援教育	段階	校内チーム支援の実践	校内外チーム支援の実践		
	特別支援教育の理解	○気になる子、障がい児童生徒に対する、個別の指導計画に沿った連携した支援について学ぶ。	○気になる子、障害児童生徒に対する、外部機関との連携した支援について学ぶ。		
	特別支援教育の実践	○気になる子、障がい児童生徒に対する、個別の指導計画に沿った連携した支援を行う。（学年・特別支援教育コーディネーター等）	○気になる子、障がい児童生徒に対する、外部機関との連携した支援を行う。（特別支援学校、療育コーディネーター、福祉、医療、等）		
教師としての理念と責務	段階	教師として自己を高めようとする研修と実践	確かな理念や哲学に基づいた研修と実践		
	法規・法令・懲戒	○法定研修や教員免許状更新について理解している。			
	教育理念 教育哲学	○自分なりの教育理念を構築しようとしている。	○教育哲学に基づき、教師としてのこれからのあり方について考えている。		
	校務の遂行	○校務の適切な遂行が、学校運営を支えていることを理解している。			

(3) 研修体系に基づいた到達目標細案

それぞれのキャリアステージの目標に対して、教員各自がポートフォリオ等の分析を行い、研修計画を具体的に立案できるように、具体的な行動目標を検討した。

○ 第Ⅰ期の行動目標

キャリア ステージ	第Ⅰ期(基礎形成期)				
	1年次	2年次	3年次	4年次	
内 容	必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得				
学 習 指 導	段 階	担当学年や担当教科を中心とした研修と実践 授業参観と分析	学年や教科等の幅を広げた研修と実践授業参観と分析	長野市教育大綱を意識した研修と実践 「模擬授業研究会」 1年次3年次合同)	
	授業設計 (含キャリア教育) 授業実践 授業分析・ 評価	・学習指導要領と教育課程の編成① ・教科書の内容を読んでみよう ・励みになる通知票の書き方 ・1時間の指導展開案の作り方	・様々な評価の仕方を学ぼう。 ・校外学習を充実させるには? ・指導案の中身を充実させよう ・「学級活動」の指導と評価	・「教育大綱」を知ろう。 ・10年目の先生の実践に学ぼう。(「教育大綱」具現の公開授業の参観)	・「総合的な学習の時間」の全体計画の立て方を学ぼう ・どこまで理解している? 「特別活動」
	指導	・授業中の発問、指名、話し方の基礎 ・子どもが分かりやすい板書の工夫 ・ノートのとり方や指導はどうするの? ・師範授業を参観する時のポイント ・初めてのテスト作成(入門編) ・教育の情報化(基礎編)	・学習指導要領と教育課程の編成② ・心に染み入る「道徳の授業」とは ・学習形態を工夫してみよう ・評価に生きるテストやドリルを自作してみよう(活用編) ・教育の情報化(活用編)	・フル指導案の作成にトライしよう ・実践「指導と評価の一体化」 ・学習形態の効果と問題点 ・年間指導計画を作成してみよう	・教材の収集、選択、分析力を高めよう→自作教材のすすめ ・ここで学ぼう「教育評価の在り方」
学 級 マ ネ	段 階	学級経営の基礎理解と実践	事例に基づいた実践の振り返りと学級経営の計画	チーム支援の実践	
	児童生徒理解 生徒指導 学級経営 (含地域・ 外部連携) 安全管理	・児童に関する書類はどのようなものを作成すればいいの ・子どもたちと何して遊ぶ? ・これは大事!学級経営案の基礎基本	・学校教育目標を具現化しよう ・読んで楽しい学級通信の書き方 ・子どものサインを見逃さないようにするには	・授業参観のアイデアを出そう ・教室の掲示板を有効に活用しよう ・どう見ればいいのか?子どもの変容	・今日からあなたもカウンセリングマインド

ジ メ ン ト	健康管理	・子どもの集中力を高めるには			
		・生徒指導の基本を学ぼう ・今すぐチェック！あなたの学級 ・これだけは覚えておきたい学級事務の基礎基本	・子どもが生き生きと活動する学級集団づくり ・遊びから見える子どもの心 ・ワークショップで学級が変わる！	・基礎から学ぼう進路指導 ・チームで対応、「いじめ」「問題行動」	・「いじめ」「問題行動」外部機関との連携で乗り切ろう
		・どうする？初めての授業参観・学級PTA・家庭訪問 ・保護者との関係づくりのポイント ・カウンセリングマインドとコーチングスキルを学ぼう ・ワークショップで人間関係づくり ・「地域との連携」って何をすればいいの？	・保護者との連携を図った学級経営のコツ ・いのちを守る学校安全マニュアル ・事例に学ぼう「いじめ」「不登校」 ・その時どうする？「問題行動」	・やりがいを実感させる児童会や生徒会運営 ・中核活動で学級がかわる	
		・児童生徒の安全な生活を支えるために→学校保健・安全指導の進め方 ・防止・発見！いじめ・不登校	・発掘！地域教材		・ストップ「学校事故」
特別 支援 教育	段階	特別支援教育の基礎理解と実践			
	特別支援教育の理解	・特別支援の子どもへの対応はどんなことをすればいいの？ ・発達障害って何？ ・ユニバーサルデザインの環境づくり・授業づくり	△気になる子の保護者への伝え方 連絡帳の書き方と学級だよりでの伝え方	△気になる子への支援のワザ □発達障害児・生に合わせた教材作り	△気になる子への支援の連携 学年・特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任との連携
	特別支援教育の実践	・ユニバーサルデザインの環境づくり ・授業づくり ・特別支援教育の制度について学ぼう			
教	段階	教師としての基本に関する研修と実践			教師として自己を高めよう とする研修と実践
	法規・法令	・キャリアプランを	△「体罰と懲戒」を	△個人情報保護や	□先輩の教師の経

師 と 教育 理念 とし ての 理念 と 責 務	・懲戒 教育理念 教育哲学 校務の遂行	立てよう ・年度末学級事務にはどんな仕事が残っているのか ・これだけは理解しておこう！ 『教育公務員』の サービスと義務	中心に、適切な指導 の在り方の理解 △校務分掌の種類には何があるの △校務分掌を確実に 遂行するコツ	情報モラルはどうするの	験を学ぼう。 □教師としての自己管理（健康・時間等） △学年会や教科会、職員会への参加の仕方
		・『先生』になるってどういうこと？ ・教師『4つの心得』 挨拶・身だしなみ・マナー・言葉遣い	△校務における自己課題発見	・教育課題の解決に向けた取り組み →環境教育・教育の情報化・国際化・帰国・外国人児童生徒への対応	
		・自分も一員『学年会・教科会』			

○第Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期、第Ⅴ期の行動目標

キャリア ステージ	第Ⅱ期 (基礎力活用期1)		第Ⅲ期 (向上期1)		第Ⅳ期 (向上期2)		第Ⅴ期 (充実期)	
	5年～9年		10年～15年		16年～20年		21年以上	
内 容	向上期に必要な知識及び技能の習得		充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能をの習得		専門的な知識、技能によりマネジメントをする		専門的な知識、技能をもとにして、高所からマネジメントする	
学 習 指 導 価	段 階	長野市教育大綱を意識した実践 「教育大綱を意識した授業実践」		長野市教育大綱の具現をめざした一人一 公開授業		教育大綱の具現のためのマネジメント		
	授業設計 (含キャリア教育) 授業実践 授業分析・評価	・「教育大綱」を意識して実践を深めよう。 (10年経験者の授業の参観、公開授業、実践事例の紹介等)		・「教育大綱」具現を目指した授業を公開しよう。 (3年次・5年経験者・10年経験者の参観)				
		・ティームティーチングの活用と実践		・校内研究を推進していくために				
	教育評価を生かした実践							
学 級	段 階	チーム支援の実践		ミドルリーダーとしての学級マネジメント		学年マネジメント		学校マネジメント
	児童生徒理解	・カウンセリングマイ		・地域と保護者と学校と、スクラム組んで子どもがのびる				

マ ネ ジ メ ン ト	生徒指導	ンドを活かした子ども 理解	
	学級経営 (含地域・外 部連携)	・チームで対応「その時やっていいこと、悪いこと」	・生徒指導主事の 役割を理解し実践 しよう
	安全管理	・いじめ、不登 校、問題行動に 関する学校マネ ジメント	
	健康管理	・やりがいを実感させる児童会や生徒会運営の指導 ・教師自身が変わることで学級経営が充実する ・非常事態、その時学校現場は！？	
特 別 支 援 教 育	段 階	校内のチーム支援の実 践	校内外とのチーム支援の実践
	特別支援教育 の理解	・特別支援学級の理解 と交流及び共同学習の 推進	・外部機関の理解と連携のとり方
	特別支援教育 の実践	・発達障害の基礎的理 解	
		・ユニバーサルデザインの実践環境づくり、授業づくりの指導的立場に	
教 師 と し て の 理 念 と 責 務	段 階	教師として自己を高め よう	確かな理念や哲学に基づいた研修と実践
	法規・法令・ 懲戒 教育理念 教育哲学 校務の遂行	・高い倫理感を持つに は ・教師としての自己を 見返そう（日頃の言動 ・対人関係・私生活 等）	・教育哲学をもとにした自分の生き方振り返ろう ・他の教師への助言や協調のあり方はどうするの
		・教育課題の解決に向けた取り組み ・『学年会・教科会』の要として	

(4) 研修体系に基づいた研修のあり方について

それぞれのキャリアステージの目標に対して、教育センターでの集合研修以外にも、学研現場での同僚性を活かしたOJT型研修や、自己研修など、教員各自が自身の資質向上に向けて取り組む研修のあり方は多様である。ここでは、それぞれの研修内容を分析した結果、それぞれの内容について、集合研修、校内研修、自主研修、教育会等外部研修のどの場面で研修を行うことが効果的かつ効率的であるかを考察した。

○第Ⅰ期の研修内容

凡例…●：集合研修 △：校内研修 □：自主研修 ◎：教育会等外部研修

キャリア ステージ	第Ⅰ期(基礎形成期)			
	1年次	2年次	3年次	4年次
内 容	基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得			
段 階	教師としての基本に関する研修と実践			教師として自己を高めようとする研修と実践
	担当学年や担当教科を中心とした研修と実践「訪問支援授業」(1人1公開)	学年や教科等の幅を広げた研修と実践「道徳研究授業」(1年次2年次合同)	長野市教育大綱を意識した研修と実践「模擬授業研究会」(1年次3年次合同)	
授 業 設 計	学習指導要領の理解	●□学習指導要領の理解 ・担当教科、学年の総説、目標及び内容	●□学習指導要領の理解 ・担当教科、学年の教科等の指導計画の作成と内容の取扱い	●□学習指導要領と長野市教育大綱の関連性
	指導案作成 カリキュラム作成	●△指導案作成 ・発問計画と板書計画	●□様々な指導法による展開の理解 ●□問題解決的な学習展開	●指導案作成と評価方法 ●年間指導計画とカリキュラム作成 □子どもの意識に沿った問題解決的な学習展開
	教科書・指導書の理解	●△教科書や指導書などの内容の理解	●□教科書や指導書に沿った学習展開	●□教科書や指導書の分析・吟味
	教材開発		●△□学習カードの作成と板書の連携 ●素材・教材・教材化の違いについて	●□児童生徒の実態に合った学習カード作成
	児童生徒の実態把握	●△児童生徒の既習事項の把握	●□既習事項と学びの傾向性(特性)の把握	●□個別学習の指導方法
キャリア教	●キャリア教育の理	●キャリア教育実践	△キャリア教育の4	△キャリア教育の

	育の推進	解	のポイントの理解	能力を意識した授業づくり	4能力を意識した学級づくり
授業実践	場面構成	●△課題把握場面の指導の工夫	●課題把握と追究場面の指導の工夫	●□まとめの場面の指導の工夫	□ねらいを見届けの授業授業・展開、及び、無理のない時間設定
	発問・板書の実際	●△計画に沿った発問と板書	●□中心発問と問のとり方、つなげ方 ●□板書用カード等の活用	●□話し合い指導の基本の理解	□個、ペア、グループなどの学習形態に応じた追究方法
	教材提示・教材活用	●△教材に応じた提示方法の工夫 □dbookproや書画カメラの活用	●□デジタル教材の活用	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法
	児童生徒理解と評価	●△座席表への記録・累積 ●△ノートや学習カード分析による実態把握	●□座席表の分析 ●□児童生徒の学びのよさと課題の把握	●□つぶやき、表情、しぐさからの評価 ●□座席表からの個人カルテの作成	□個人カルテの分析 □児童生徒の学びの変容とその要因の考察
	危機管理	●△使用する教材・教具の危険性の想定	●□事故事例に基づいた事故発生時の基本対応		□小学校、中学校、特別支援学校における事故事例からの学び
授業分析・評価	学習成果の判定	●△基本的な評価方法と評価規準の理解、通知票の表記	□児童生徒の学習意欲につながる評価方法の理解、通知票表記 □テスト結果の分析と生かし方	●□児童生徒による自己評価を加味した意欲・関心・態度の評価	□児童生徒の授業感想やノートへの記述に対する評価・助言
	授業記録の分析	●△板書、ノート、学習カード等からの振り返り	●□授業記録のまとめ方と授業の考察	●□授業記録の分析による児童生徒の実態把握	□授業記録の分析による児童生徒の実態把握と指導改善の方向
	自己課題発見と授業改善	●△指導教員や校内の教員の指導・助言から課題と改善策を検討	●□児童生徒の学びの変容のとらえ方	●□授業分析の方法や分析の視点の理解	□授業分析の累積 □授業改善の日常化
	授業参観	△師範授業、授業研修会への参加	●□授業参観・研究会への参加（同学年または専門教科）	●授業参観・研究会への参加（同学年または専門教科）	●□授業者や児童・生徒の姿からの授業評価
	授業の課題への助言	△教師の支援と児童生徒の学びの理解 △他者の授業の課題への助言	□授業記録の記入と考察方法の理解（春期授業研修）	△□授業における子どもの発言等の記録と子ども理解	◎授業記録のとり方と授業の考察③

学級マネジメント	児童生徒の認識に関わる知識の理解	<ul style="list-style-type: none"> ●◎学校教育目標と学級経営基礎 △学級開きの準備、4月の学級経営（係・目標など） △1日の生活 学活・給食・清掃の扱い ●学級づくりの基本的な考え方理解 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級経営の柱（中核活動の決めだし） △学期末のむかえ方、学校行事の運営 ●△問題行動が起きた時の生徒への指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級経営の実際について、事例を持ち寄り事例検討、情報交換を行う 	
	児童生徒の理解と集団への活かし方	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめやけんかなど、集団内のトラブルを早期に発見する方法 ●児童・生徒の発達段階の理解と基本的な対応 △学級組織の理解（係決め、役割分担方法） 	<ul style="list-style-type: none"> △いじめや集団内のトラブルにける児童生徒の背景にある要因分析 ●特別支援の児童生徒を中心にすえた学級づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◎指導上困難な児童生徒の対応と組織的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> △問題行動事例に則した指導方法の理解と演習
	児童生徒を理解し実践する	<ul style="list-style-type: none"> ●学級の状態を把握するための調査結果の見方 ●各群の特徴と個への支援の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> △学級の状態を把握するための調査の事例を持ち寄り、児童生徒の具体を示して事例検討や支援策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> □個や集団の特質に応じた手だて △学級の状態を把握するための調査結果を活用した事例検討法の演習 □生徒の言動から見る生徒理解 	<ul style="list-style-type: none"> □事例検討法から考えた対応策、支援策を実施してその結果を分析する
	児童生徒との信頼関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> △教師として、子どもたちの遊びに参加する ●子どもの事実やそのときの教師の思いの記録の仕方 ●児童生徒を受容、共感する接し方 	<ul style="list-style-type: none"> ●「遊びの中から見えてきたもの」「遊びを通して得たもの」についての事例研究 ●△事例検討会で、教室の姿とのズレや気になる子どもの姿を研究し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ●△子どもたちと一緒に遊ぶ中で、変容を事例としてまとめる □教師のとらえと子どもの姿のズレについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●□遊びの中でとらえた子どもの姿を授業や活動などに生かす工夫を考える □児童生徒や保護者との面談の仕方
	生徒指導の基本的な内容の理解と指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎●いじめ対応マニュアル研修 ●不登校の未然防止と早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ対応事例研究 ●不登校対策事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> △支援会議への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◎△学校組織として取り組むいじめ・不登校対策の研究 ●外部機関と連携したいじめ・不登校対策の研究
子どもを理	<ul style="list-style-type: none"> ●人間関係作りのた 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級の状況に応じ 	<ul style="list-style-type: none"> □ファシリテーター 	<ul style="list-style-type: none"> □学年の発達段階 	

解するための諸検査	めのワークショップの理解・体験	たワークショップのプログラミング ●個に寄せたワークショップのプログラミング	としてのワークショップの演習	に応じた構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等の年間の計画を考える
地域や外部との連携	●CS研修による基礎的な対応の理解		□地域と連携するための接遇の理解	□地域行事への自主的な参加
	△自校の教育活動を支える外部機関を知る		△チーム支援会議への参加	
		●地域や学校をよく知るポイントの理解	□情報の基本的な発信や収集	●地域や保護者と連携した学習の創造
学級通信・保護者との意連絡	●報告、連絡、相談の行動とその理解 △明るい挨拶ができる。	△保護者からの要望への対応	△支援や特別な配慮が必要な児童生徒の保護者への基本的な対応のあり方	
	●「学級・学年通信」の作り方「家庭との連絡帳」「生活記録」への対応についての理解 △保護者懇談、学級懇談会の運営、学級保護者役員との連携の仕方 △参観日、家庭訪問、三者懇談会等の意義、と配慮自校の理解	△保護者との日常的な連絡のとり方	△学級懇談会や学年懇談会の基本の理解	
	●学級・学年通信の役割や効果、作成上の配慮事項等の理解		△学級・学年通信の効果的な活用	
学級経営等	△校務分掌の理解			
	●学級経営の基礎と基本の理解	△学級経営のあり方	△特別に配慮を要する児童・生徒の居場所づくり	
	△諸表簿に関わる内容と事務遂行上の留意事項を理解と適切な処理			
特別支援教育	△学級経営の基礎理解と実践（清掃・給食・短学活等）	△部活動、児童会・生徒会、学校行事（宿泊学習、文化祭、運動会、音楽会、儀式）等の指導	△事故防止と安全対策	
	●発達障害の基礎的理解 □ユニバーサルデザインの環境づくり・授業づくりの意識	◎気になる子の保護者への伝え方 ▲学級だよりでの伝え方	▲発達障害の児童生徒への対応（その子の特徴に合わせた支援方法の理解） □発達障害児・生に合わせた教材作り	◎発達障害の児童生徒に対する連携した支援（学年・特別支援教育コーディネーター・特理解
	●教育公務員として	△「体罰と懲戒」を	△個人情報保護の保護や	
教	法規等の理			

師として	解	のあり方と法令や条例、非違行為について理解	中心に、適切な指導の在り方の理解	情報モラルに関する理解	
理念と責務	教育理念 教育哲学	●教師としての理念の構築と責務の自覚			□先輩の教師の経験に学ぶ
		●組織の一員として、適切な挨拶、言葉づかい、身だしなみ等の理解と実践			□社会人としてのあり方自己管理 (健康・時間等)
務	校務の遂行	△学年・教科会等の一員として職務遂行	△校務における自己課題発見		△学年会や教科会、職員会の意義理解

○ 第Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期、第Ⅴ期の研修内容

凡例…●：集合研修 △：校内研修 □：自主研修 ◎：教育会等外部研修

キャリア ステージ	第Ⅱ期 (基礎力活用期1)		第Ⅲ期 (向上期1)	第Ⅳ期 (向上期2)	第Ⅴ期 (充実期)
	5年～9年		10年～15年	16年～20年	21年以上
内容	向上期に必要な知識及び技能の習得		充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能をの習得	充実期を前提とし、専門的な知識習得	
段階	教師として自己を高めようとする研修と実践		確かな理念や哲学に基づいた研修と実践		
	長野市教育大綱を意識した授業実践 「教育大綱授業」(1人1公開)		長野市教育大綱の具現をめざした授業実践 「教育大綱公開授業」(研究委員)		
授	学習指導要領の理解	◎△□担当教科・領域の特性や意義、関連性、系統性の理解		△◎指導要領に関わって説明、指導助言ができる	
	指導案作成 カリキュラム作成	●△□自己課題の解決を図る指導案作成 ◎□子どもの意識に沿った学習展開		●□専門教科のカリキュラム作成 △□単元別時数の年間計画の立案	
業	教科書・指導書の理解	△教科書の学習展開をベースにした問題(課題)解決的な学習の構想		△□教科書の違いの分析 ◎教材観の確立	
	教材開発	◎●△□素材研究方法の理解 △□デジタル教材の作成、開発(PPT等を用いて)		△□◎地域素材の教材化や教材開発	
設	児童生徒の実態把握	●△□児童生徒の実態に応じた手だてと学習		□学習形態(一斉、個別、協働)の効果的な編成	
	キャリア教育の推進	●△児童生徒のキャリア発達を意識した指導と授業公開(教科指導・学級経営等)		●児童生徒のキャリア発達を意識した、単元づくりと評価、授業公開 △自己判断できる児童生徒の育成	

		△自己判断できる児童生徒の育成	
授業実践	場面構成	△□◎児童生徒の意識に沿った学習問題・課題の設定	●△児童生徒の意識のつながりと学習問題・課題設定
	発問・板書の実際	●△◎話し合いを促す発問と板書の工夫	△話し合いを高めるための指導
	教材提示・教材活用	△□◎体験や活動的な学びを大切に学習展開	◎△□個別化、協働学習につながる教材提示
	児童生徒理解と評価	●△□授業の中で実態を把握する方法の理解 ●△□子どもの思考と教師の見方のズレの把握	△□授業の中での評価と指導の一体化
	危機管理	●△□事故防止の関係性の構築	△□授業において、事故防止を常に意識できる心構え
授業分析・評価	学習成果の判定	●△□授業中の達成度評価 △□テストの作成とテストの評価	△□児童生徒の学習成果の判定と、児童生徒個々に応じた指導・助言
	授業記録の分析	△□ビデオ視聴による児童生徒の実態の把握	□◎ビデオ視聴による児童生徒の実態の把握と指導改善の方向
	自己課題発見と授業改善	●△□授業分析の考察からの課題・改善点の明確化 ●△□自己課題をもって、校内公開授業実践	△□記録から学ぶ授業の躓きの分析と指導 △□基準に達しない児童生徒への指導方法確立
	授業参観	●△□授業者や児童・生徒の具体的な姿に基づき、支援のよさや改善点の提示 ●△□児童生徒の学習評価結果や自身の授業評価をもとに、改善点を見出す研究	△□◎教師間の同僚性を生かした授業研究
	授業の課題への助言	△◎授業記録の分析④	△◎授業の成果と課題を整理し助言する △授業参観する際の視点を身につける。
児童生徒の理解と実践	児童生徒の認識に関わる知識の理解	□児童や生徒の実態に基づいた活動の位置づけ方	●□子どもと子ども、教師と子どもをつなぐ教師の役割の再意識
	児童生徒の理解と集団への活かし方	◎子どものありのままの姿が出るインフォーマルな場づくりの方法 □児童・生徒の発達段階の理解と基本的な対応	
	児童生徒を理解し実践する	△学級の状態を把握するための調査結果から、実態に応じた集団づくりができる □特別に配慮が必要な児童生	□生徒指導に関する法令等、具体的な事例を通して理解する。 □学級の状態を把握するための調査を活用した事例検討

学級マネジメント	<p>徒への個別指導の在り方の理解と実際</p> <p>□生徒指導に関する法令等、具体例を通して理解する。</p>	
児童生徒との信頼関係づくり	<p>◎児童生徒の事実の記録作成、事実から思いや言動の傾向をとらえる</p> <p>□児童生徒の願いや保護者の願いを聞き取ることができる</p> <p>●児童生徒や保護者との面談の仕方</p>	●児童生徒との距離感の再認識
生徒指導の基本的な内容の理解と指導	<p>□児童生徒と同じ立場で遊んだり、共に活動できることを位置づける。</p> <p>□登校刺激のタイミングとその方法</p>	
子どもを理解するための諸検査	<p>△人間関係作りの実践事例から学ぶ</p> <p>△弱い立場の子を活かす学級作り</p> <p>△年間計画とクラスの実態に応じた計画案作成</p>	□弱い立場の子を活かす学級作り
地域や外部との連携	△内容理解とケースに応じた連携の在り方	●地域や保護者と連携した学習や活動の授業公開や地域での発表
学級通信・保護者との連絡	●不快な思いをさせない対応（来客、電話等）	△不快な思いをさせない対応（来客、電話等）
	△児童生徒についてのきめ細やかな情報交換 △授業参観や保護者会のねらいの理解	●相手の思いや願いに寄り添った対応
学級経営等	△校務、生徒指導、教科指導、行事等の問題点や課題を発見し解決の方策の実践	
	●学級経営マネジメントの学びと学級経営力の向上 △中核的活動の進め方 △困難学級の組織的な支援	△学級経営方針に基づいた授業公開
	△校務の意義等を理解し、問題点や課題に気づく △担当教科や学校の実態に応じた校務の処理の方法を理解し、処理できる。	△担当教科や学校の実態に応じた校務処理の指導・助言
	●安全対策等のマニュアルの理解 ●非常時の組織的行動と役割等の理解と実践	△安全対策等の実態に応じたマニュアルの作成 △非常時の組織的行動と役割等の理解と実践

特別支援教育	発達障害の児童生徒の理解と支援	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学級の理解と交流及び共同学習の推進 ●発達障害の基礎的理解 	△外部機関の理解と連携の取り方	△外部機関と連携した実践
教師としての理念と責務	法規等の理解 教育理念 教育哲学 校務の遂行	△法定研修と教員免許更新の理解 △児童・生徒の健康・安全面に関わる法規の理解 <ul style="list-style-type: none"> ●高い倫理観の構築と専門性の向上 △教師としての言動の振り返り △様々な校務分掌の種類と内容について理解と自己の役割の確実な遂行	□教育哲学から学ぶこれからの自分のあり方	□◎自己の教育観に基づく教育実践のあり方
			●他の職員への助言や協調のあり方	△他の職員への助言や協調のあり方

（５）研修体系に基づいた教育センターの研修講座について

教員の資質向上にかかわる現代的課題として、教育センターでの集合研修のあり方が問われている。今後同僚性を活かしたOJT型の研修の充実という方向性を加速させるため、教育センターで実施する集合研修の内容について再検討した。これまで教育センターが実施してきた希望研修の内容は、教員の立場からすると自己課題の追究の側面が強く、学校内外での同僚性を発揮した自主研修として展開することで、内容を十分に担保できるものが多い。つまり、提案された研修体系に則して教育センターの研修講座の設計を考えるならば、それぞれのキャリアステージで最低限到達しなければならない目標に、教員一人一人が到達するための悉皆講座が中心となる。

そこで、研修体系に基づいた目標と教育センターで平成25年度開講した136の研修講座との関係について、マップを作成した。作成してみると、今回検討した目標と直接対応しない講座や複数の目標が入り込んでしまう講座等、かなり課題が明確になってきた。

たとえば、管理職向けの研修講座については、内容が目標と対応させようとするとは不明瞭なもあり、管理職研修のあり方を検討の必要性が明確になった。また、教科にかかわる研修や教養にかかわる研修講座は、講座の内容そのものには問題はないが、教科や内容の偏り等がみられ、同僚性を活かすという観点から考えると、教育センターで実施するより、校内研修や教育会などの同好会での研修で充実を図った方がよいと考えられるものも多くみられた。今後研修講座を実施する中で、作成したマップから研修講座開設の根本原理を明確にしていく必要がある。

また、平成25年度開講された講座受講者に対してアンケートをみると、教科指導や課題教育、校内研修のあり方等悉皆研修の講座を中心に、今後の実践に役立たないと回答しているものがあり、教師にとって日々対応を迫られる目先の問題現象を回避するためのもの以外に重要性を見いださない傾向がみられ、悉皆の集合研修の意図（目的）をいかに教師に伝えるか（研修の認識）が、大きな課題ともいえる。

（詳細については、別表参照）

Ⅲ. デジタルポートフォリオの開発

教師のキャリアデザイン設計を意識させるための、教育実践ポートフォリオシステムの開発を行った。

(1) 教師力チェックリスト

キャリアの応じた研修を意識化することができるように、教師力（授業力を含む）チェックリストを作成し、教師自身が資質向上に向けて不断の努力を効果的に継続できるように工夫した。

それぞれの項目については、まだ努力しなければならないか、達成できているか、十分達成できているかについて、各自チェックして、それぞれの状況に応じて、研修計画を立てることとした。

		初任者用	10年程度経験者	10年以上経験者
教職の専門性	1	教職に対する責任感や探究力を身につけるよう努力をしている。	教職に対する責任感や探究力が着くよう課題を決めて研修に励んでいる。	教職に対する責任感や探究力に基づき、校内での自分の位置を自覚し、教育実践を展開することができる。
	2	自主的に学び続ける努力をしている。	自主的に学び続ける力がつき、日々の実践に生かしている。	同僚性を生かし、自主的に学び続ける力を活用して日々の教育実践に臨んでいる。
	3	教科や教職に関する高度な専門的知識が身につくように日々研修に励んでいる。	教科や教職に関する高度な専門的知識を身につけるために研修に励み、実践に活用できる。	教科や教職に関する高度な専門的知識を身につける努力と、同僚への支援ができる。
実践的指導力	4	新たな学びを展開できる実践的指導力を身につけるよう研修に励んでいる。	知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる。	最新の教育にかかわる知見を身につけて、教育課程や学習指導計画をデザインしたり、同僚に支援することができる。
	5	生徒指導、学級経営等が機能し、教科指導を的確に実践できる。	教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる	教科指導、生徒指導、学級経営等についての的確に実践できるとともに、同僚性を生かして支援することができる。
総合力	6	豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力が身についている。	豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力を身につけ、地域や社会の多様な組織等と連携して実践することができる	豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力を活用して、教育

			できる。	実践を展開することができる。
単 元 構 成 ・ 教 材 研 究	7	教科書の指導書に目を通して いる。	学習指導要領の目標・内容を 参照している。	学習指導要領の目標・内容や 教科書の内容を深化・補充す る、教材も開発している。
	8	教科書に準拠した資料や副 読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準 備している。	指導目標を達成するために適 切な資料やメディア学習環境 を子どもの個人差を考慮して 準備し ている。
	9	同僚に、使い勝手の良い教 材・教具を教えてもらって いる。	授業で用いるワークシートや 資料を自作している。	子どものレポートや作品を、 展示・掲示したりデジタル化 したりして学習のモデルとし て利用しやすくしている。
指 導 技 術 ・ 方 法	10	教科書の指導書に記され た、標準的な展開を踏まえ ている。	あえて教科書の指導書の標準 的な展開を避けて指導する場 合がある。	教科指導においても、子ども と相談して、本時の展開を組 み立てることがある。
	11	習得のための指導をおこな っている。	単元の一部の時間において、 活用のための指導も実施して いる。	習得・活用・探究の指導方法 を単元の内容等に応じて使い 分けている。
	12	業者が作成したテストの結 果を分析している。	子どものノートやワークシー トの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検 ・教師間の授業観察を通じ て、授業評価を行っている。
子 ど も へ の 対 応	13	学習指導の過程における、 成績中位の子どもの反応を 予想している。	学習指導の過程における子ど もの多様な思考や反応を予測 している。	学習指導の過程における子ど もの多様な思考や反応を、つ まづきのポイント等を含め て、十分に整理したうえで授 業に臨んでいる。
	14	授業前に予定したとおりに 授業を進めるようにしてい る。	予想していなかった発言や行 動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり 、後の指導内容を扱ったりし て、予想していなかった子 どもの発言や行動に柔軟に対 応している。
	15	子どもにテストの結果をフ ィードバックしている。	子どものノートやワークシー トに、学習の成果と課題につ いてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、 学習の成果と課題を縦断的に 評価し、それを彼らに伝え、 意識させている。
学 習 集	16	ベル着席等の基本的なルー ルを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の 仕方などに関するルールを定 めている。	様々なルールを子どもに主体 的に作成させ、それが遵守さ れているかどうかを点検・評

団			働かせている。
作り	17	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるよう工夫している。
	18	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。
指導観	19	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。
	20	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。
	21	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。
家庭学習	22	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。
	23	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。
	24	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。
同僚との	25	同僚と授業の進捗について話をしている。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。
		授業の問題点を指摘してく	授業の良かった点について率
			学年・教科を超えて、授業の

関係性	26	れる同僚がいる。	直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	27	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ	28	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	29	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	口授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	30	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
イメージ	31	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	32	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつかせることができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	33	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
ムード	34	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静にそのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろその状況を楽しんでいる。
	35	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	36	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

(参考資料：「教師の力量とその形成」[ベネッセ 2010])

(2) デジタルポートフォリオの基本設計

教員自身による自己特性に応じたキャリアデザイン設計の補助、および資質向上を図るための教育実践情報の共有を目的とし、これに必要な機能を実装するものとした。

機能としては、大きく4つの機能から成り立ち、これらを有機的に組み合わせることで、効率的に教員の資質並びに授業力の向上を促すことを目的としている。

① ポートフォリオシステム

教員の研修歴（公的研修、自主研修、免許状更新講習、その他）、資格、校務分掌、学外活動等をデータベース化することで、自己の成長過程を評価、管理する。

② 教師力診断システム

自分自身の教師力を診断し、不足している能力を客観的に認識する。

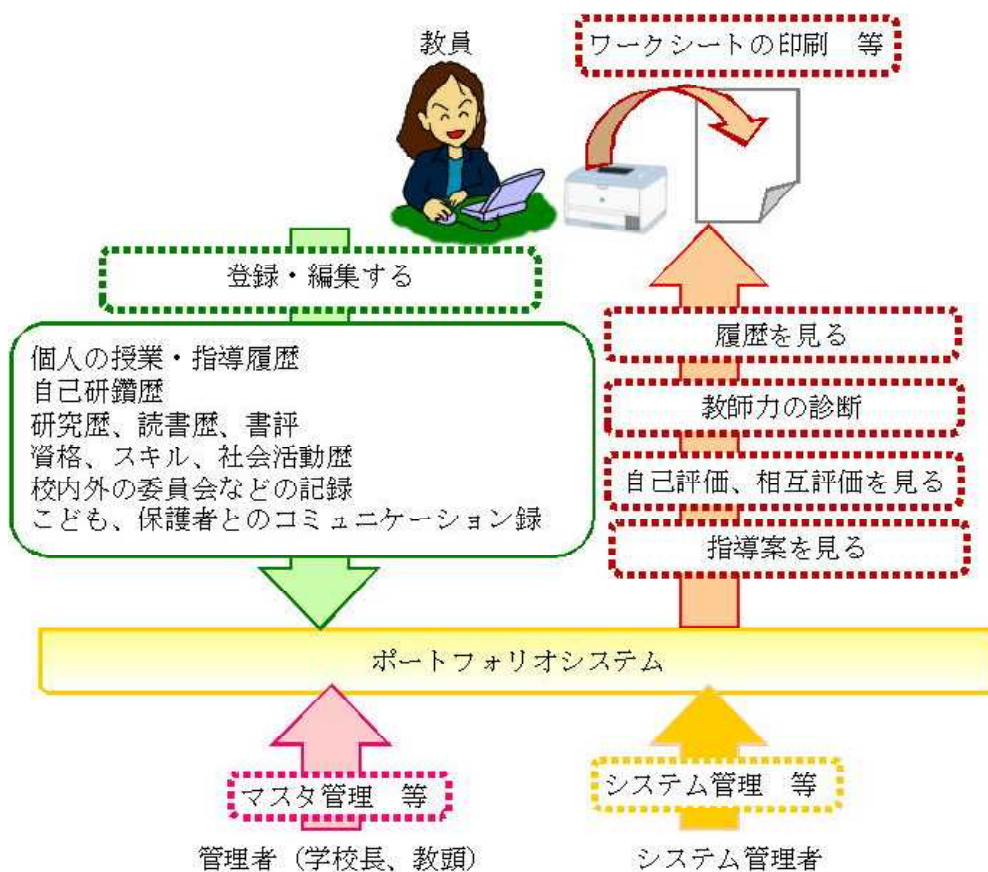
③ 行動目標設定システム

ポートフォリオ、教師力診断を活用して、自分自身の行動目標を設定する。

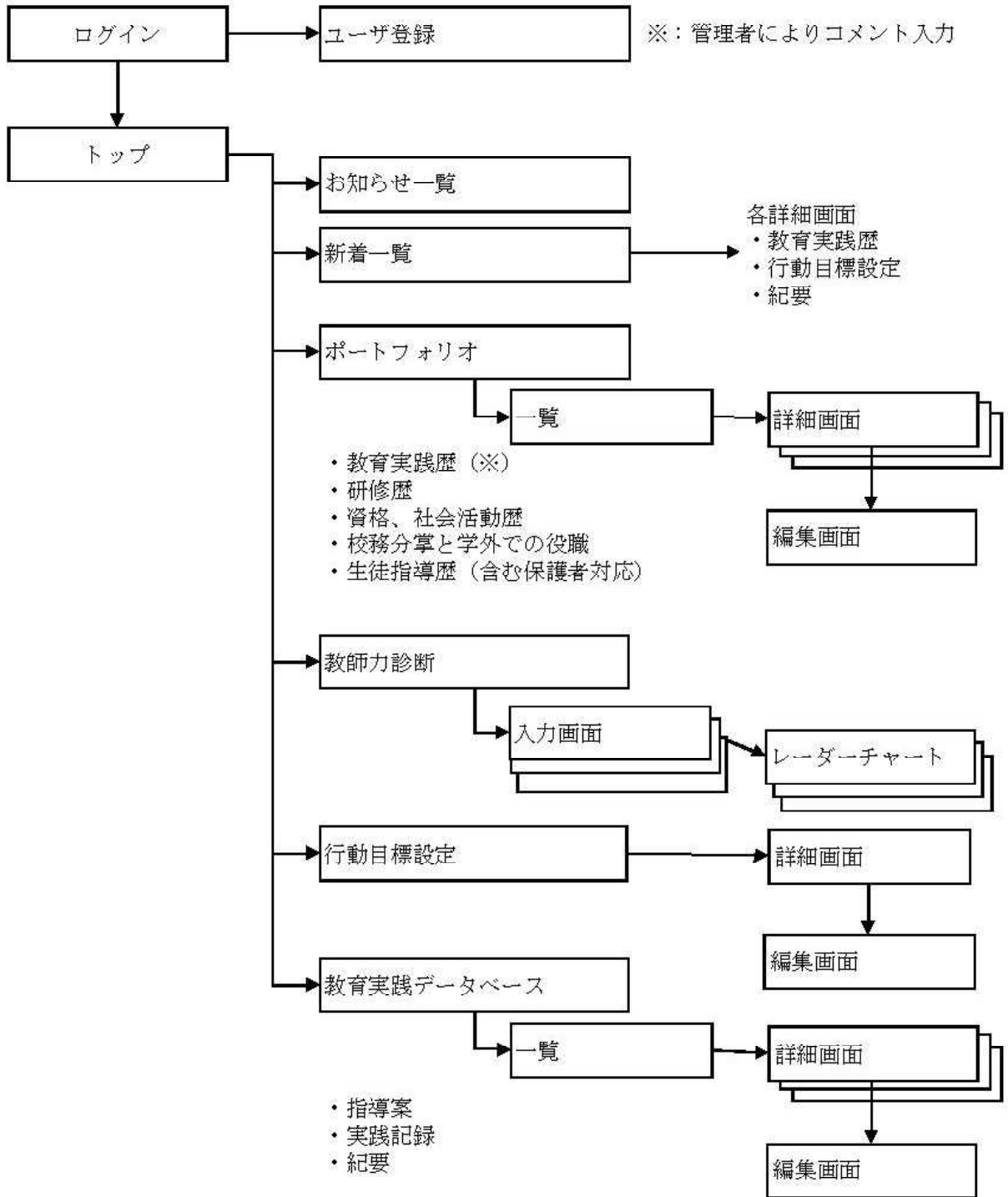
④ 教育実践データベース

自分、または他者の指導案や実践記録をデータベースに一元化することで、有効活用を図る。

以上のことを踏まえて、システムフローは以下のような設計とした。



システムフローにしたがって、教員のサイトマップは以下通りとした。



※ログインについて

■概要

IDとパスワードを入力してログインボタン押すことによりシステムにログイン。

■ユーザID

・教員の職員番号（8桁）がログインID。

■パスワード

・大文字小文字英数字をそれぞれ1つ以上含む8桁～16桁の任意の文字列。

(3) デジタルポートフォリオのサイト上の基本画面

① メニューについて

The screenshot displays the 'Teacher Portfolio System' interface. On the left is a vertical sidebar menu with five items: 'ホーム' (Home), 'ユーザー管理' (User Management), 'お知らせ管理' (Notice Management), '教師力診断質問管理' (Teacher Skill Diagnostic Question Management), and 'マスタ管理' (Master Management). The main content area is titled 'ユーザー情報検索' (User Information Search) and contains a search box with the instruction 'キーワード、タイトル、教員名からユーザ情報を検索します。' (Search user information by keyword, title, or teacher name). Below the search box are '検索' (Search) and 'クリア' (Clear) buttons. Underneath is a '新着一覧' (Recent List) section showing a table of activities:

日付	カテゴリー	内容	操作
2014.08.04	行動目標設定	2015年度の行動目標設定を登録しました。	初稿一括
2014.08.04	行動目標設定	2014年度の行動目標設定を登録しました。	初稿一括
2014.02.22	教育実践歴	個人目標を登録しました。	初稿一括
2013.12.11	教育実践歴	教育実績歴「個別指導とアリング」を登録しました。	初稿一括
2013.12.11	教育実践歴	教育実績歴「title」を登録しました。	初稿一括
2013.12.11	教育実践歴	個人目標を登録しました。	初稿一括
2013.12.11	教育実践歴	教育実績歴「個別指導とアリング」を登録しました。	初稿一括
2013.12.11	教育実践歴	教育実績歴「個別指導とアリング」を登録しました。	初稿一括
2013.12.10	紀要	関係の種差への応答に対する自然環境教育の効果	初稿一括
2013.12.10	行動目標設定	2012年度の行動目標設定を登録しました。	初稿一括

At the bottom of the list is a pagination control showing '(1) 2 3 4 ... 14 >>'.

The footer contains navigation links: 'お問い合わせ' (Contact Us), 'ヘルプ' (Help), 'サイトマップ' (Site Map), 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy), and 'xoops管理' (Xoops Management). A 'ページの先頭に戻る' (Return to Top of Page) button is also present. Copyright information is shown at the bottom left.

■メニュー…システム各機能へのリンク

■お知らせ…免許状更新時期や、システムからのお知らせを表示。

■新着一覧…各機能にて記事登録時に、「新着一覧に表示する」にチェックを入れた記事を一覧で表示。表示件数は20件。

■パスワード変更…クリックにより、パスワード変更画面を表示し、パスワードの変更が可能。

② 教育実践歴について

- 概要…単位年ごとに、個人目標を設定し、その間の教育実践歴を記録。
単位年終了時に反省・総括を入力。
- 単位年…1年目、2年目、3年目、5年目、10年目、15年目、20年目、25年目
- 個人目標…テキスト形式で入力。
- 教育実践歴…年月日と内容を入力し、時系列で教育実践歴を記録する。
- 反省・総括…テキスト形式で入力。

教員ポートフォリオシステム

ユーザー情報変更 ログアウト

ホーム
ユーザー管理
お知らせ管理
教師力診断質問管理
マスタ管理

ポートフォリオ
教育実践歴
研修歴
資格、社会活動歴
校務分掌と学外での役割
生徒指導歴(含む保護者対応)
週案作成
教員履歴
教師力診断
行動目標設定
教育実践データベース

教育実践歴

1~4年目 5~9年目 10~15年目 16~20年目 21年目

個人目標

個人目標編集画面で入力したものが表示される。

自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
[最終更新日:2014.03.20] 編集

コメント もっと具体的に何をしたいのかを明確にしていきたいと思います。
[最終更新日:2013.12.10] コメント

コメントを非表示にする

教育実践歴

2013.12.10 個別指導ヒアリング 編集
2013.11.28 授業態度指導 編集
[最終更新日:2013.12.11] 新規追加

反省・総括

生徒たちへの指導方法は一朝一夕ではなかった。
来年に向けて実績をまとめてみる。
[最終更新日:2013.12.10] 編集

コメント 日々生徒は変化していきます。世論、風潮などにも左右されやすいものです。
指導していく上で勉強は欠かせません。
[最終更新日:2013.12.10] コメント

コメントを非表示にする

削除 戻る

[入力画面]

教育実践歴
タイトル
登録日
内容
添付ファイル
作成した指導案や資料等を保存する。
□ 新着一覧に表示する

お問い合わせ ヘルプ サイトマップ プライバシーポリシー XCOOPS管理

ページの先頭に戻る

Copyright © 2013 All Rights Reserved

③ 研修歴について

- カテゴリ…公的研修、自主研修、免許更新、その他の4カテゴリで登録。
- 登録日…登録日は任意の日に設定可能。
- 内容…テキストで入力。

教員ポートフォリオシステム

→ユーザー情報変更 →ログアウト

研修歴

公的研修 自主研修 免許更新 その他

公的研修 - 公的研修登録

2013/10/08
公的研修へのエントリー登録を行った。
研修に向けて勉強に励みます。

[最終更新日:2013/12/10] 編集 削除

添付ファイルがある場合は、表示される。

お問い合わせ ヘルプ サイトマップ プライバシーポリシー XCOPS管理

↑ページの先頭に戻る

Copyright © 2013 All Rights Reserved

※データは右の画面から入力

カテゴリ	<input type="text"/>
登録日	<input type="text"/>
内容	<input type="text"/>
添付ファイル	<input type="text"/> <input type="button" value="選択"/>
	<input type="text"/> <input type="button" value="選択"/>
	<input type="text"/> <input type="button" value="選択"/>
<input type="checkbox"/> 非表示	
	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

④ 資格、社会活動歴について

- 概要…カテゴリごとに個人の資格、社会活動歴を登録・閲覧。
- カテゴリ…資格・社会活動歴の2カテゴリ。
- 一覧画面…カテゴリごとの新着記事を一覧表示。
- 新規登録…記事を新規に登録。
- 編集…登録済みの記事を編集。

The diagram illustrates the user interface for managing qualifications and social activity history. On the left, a 'List View' shows a table with two columns: '資格' (Qualification) and '社会活動歴' (Social Activity History). Under '資格', there are two entries: one dated '2013.03.05' with the text '・○○に参加した。' and another dated '2014.02.21' with '・□□検定に合格。'. Each entry has a '編集' (Edit) button. On the right, an 'Edit View' shows a form for editing a record. It includes a '登録日' (Registration Date) field set to '20XX年XX月XX日', a '内容' (Content) text area, and a '添付ファイル' (Attachments) section with three file input fields. Both views have a 'ログアウト' (Logout) button at the top right. An arrow points from the list view to the edit view.

※入力画面

- カテゴリ…2つのカテゴリを選択
(資格・社会活動歴)
- 登録日…登録日を設定
- 内容…テキストで入力
- 添付ファイル
…「選択」ボタンをクリックすることで、ローカルPCのファイルを選択してアップロード。

The input form contains the following fields and controls:

- カテゴリ**: A dropdown menu with a downward arrow.
- 登録日**: A text input field.
- 内容**: A large text area for entering details.
- 添付ファイル**: Three file input fields, each with a '選択' (Select) button to the right.
- Buttons**: '登録' (Register) and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom.

⑤ 校務分掌と学外での役職について

- 概要…カテゴリごとに個人の活動歴を登録・閲覧。
- カテゴリ…校務分掌・学外での役職の2カテゴリ。
- 一覧画面…カテゴリごとの新着記事を一覧表示。
- 新規登録…記事を新規に登録。
- 編集…登録済みの記事を編集。

The diagram illustrates the transition from a list view to an edit view. On the left, a list view shows two articles with dates (2013.03.05 and 2013.02.21) and edit buttons. An arrow points to the right, where the edit form is shown. The edit form has a '校務分掌' (School Administration) category selected, a registration date field (20XX年XX月XX日), a content text area, and a file upload section with three '選択' (Select) buttons. The '校務分掌' category is highlighted in yellow.

※入力画面

- カテゴリ…2つのカテゴリを選択
(校務分掌・学外での役職)
- 登録日…登録日を設定
- 内容…テキストで入力
- 添付ファイル
…「選択」ボタンをクリックすることで、ローカルPCのファイルを選択してアップロード。

The input form contains the following elements:

- カテゴリ**: A dropdown menu with a downward arrow.
- 登録日**: A text input field.
- 内容**: A large text area for entering the article content.
- 添付ファイル**: Three file input fields, each with a '選択' (Select) button to the right.
- 登録**: A button at the bottom left.
- キャンセル**: A button at the bottom right.

⑥ 生徒指導歴（含む保護者対応）

- 概要…生徒指導歴（含む保護者対応）を時系列で登録、閲覧。
- 一覧画面…新着記事を一覧表示する。
- 新規登録…記事を新規に登録。
- 編集…登録済みの記事を編集。

ログアウト

新規登録

2013.03.05 編集

2013.02.21 編集



ログアウト

編集

印刷

登録日 20XX年XX月XX日

内容

.....

添付ファイル

.....

.....

※入力画面

- 登録日…登録日を設定
- 内容…テキストで入力
- 添付ファイル
…「選択」ボタンをクリックすることで、ローカルPCのファイルを選択してアップロード。

ログアウト

登録日

内容

添付ファイル

..... 選択

..... 選択

..... 選択

登録 キャンセル

⑦ 週案作成について

■ 週案入力機能

- ・ 今週の重点、記録を入力
- ・ 教科ボタンから入力する教科の設定、設定後はリストから選択して入力
- ・ 集計から期間を指定して授業単位で集計
- ・ 週毎、集計からPDF出力

[ユーザー情報変更](#) [ログアウト](#)

教員ポートフォリオシステム

ホーム

ユーザー管理

お知らせ管理

教師力診断質問管理

マスタ管理

ポートフォリオ

教育実践歴

研修歴

資格、社会活動歴

校務分掌と
字外での役職

生徒指導歴
(含む保護者対応)

週案作成

教員履歴

教師力診断

行動目標設定

教育実践
データベース

週案作成

メニュー PDF 集計 教科 今日

◀ **2014年 5 週目** ▶
 (1/26～2/1)

今週の重点
文集を仕上げる

	日	月	火	水	木	金	土
	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1
1		算数	道徳	算数	国語	算数	
2		国語	算数	国語	算数	国語	
3		社会	英語	理科	音楽	家庭科	
4		音楽	社会	理科	体育	家庭科	
5		図工	体育	社会	総合	総合	
6		図工	図書館		学級	理科	
備考							

記録
算数が遅れ気味

[お問い合わせ](#) [ヘルプ](#) [サイトマップ](#) [プライバシーポリシー](#) [XQAPS管理](#)
↑ ページの先頭に戻る

Copyright © 2014 All Rights Reserved.

※ポートフォリオを定期的に確認することをねらいに週案の作成を付加した。

⑧ 教員履歴について

■ 概要…期間、履歴、内容、添付を入力

○ トップ画面

教員履歴

印刷

教員履歴一覧

新規追加

2012.04.01 ~ 2014.03.31 〇〇学校 編集

2010.04.01 ~ 2012.03.31 〇〇小学校 編集

(1) 1-2 / 2件

[最終更新日: 2014.03.18]

○ 詳細画面

教員履歴

教員履歴 - 〇〇学校

2012.04.01 ~ 2014.03.31
担当科目: 理科
担当学年: 3, 4年

添付ファイル

+ 教員履歴.csv

[最終更新日: 2014.03.18] 編集 削除

○ 入力画面

教員履歴

教員履歴編集

期間 2012-04-01 ~ 2013-03-31

履歴 〇〇学校

内容 担当科目: 理科
担当学年: 3年

添付ファイル

参照... ファイルが選択されていません。

参照... ファイルが選択されていません。

参照... ファイルが選択されていません。

登録 キャンセル

⑨ 教師力診断の画面

各設問に回答することで、教師力診断を行う。

■年数…診断対象の年数を表示。

■設問…該当する設問にチェックを入れて回答する。経験年数で質問項目が変わる。
管理画面で、設問の変更可能。

■集計結果を見る…結果を集計し、レーダーチャートで表示。

The screenshot displays the 'Teacher Portfolio System' interface. On the left is a navigation menu with categories like 'Home', 'User Management', 'Announcements', 'Assessment Question Management', 'Mask Management', 'Portfolio', 'Education Practice History', 'Research History', 'Qualification/Social Activity History', 'Schoolwork/Off-campus Roles', 'Student Guidance History', 'Lesson Planning', 'Teacher Career', 'Teacher Assessment', 'Action Plan Setting', and 'Education Practice Database'. The main content area is titled 'Teacher Assessment' and shows a progress indicator for '1~4 years' and a 'Collect Results' button. The assessment questions are grouped into four sections: 'Professionalism of the Profession' (questions 1-4), 'Practical Guidance' (questions 5-7), 'Curriculum Research/Guidance Techniques/Methods' (questions 8-9), and 'Mood' (questions 42-45). Each question includes a description and three radio button options: 'One Step More', 'Almost Done', and 'Fully Done'. A 'Collect Results' button is located at the bottom of the question list.

教師力診断

年数 1~4年目

当てはまる項目にチェックを入れて「集計結果を見る」ボタンをクリックしてください。教師力診断を行います。

教師力診断設問

教職の専門性

1 教職に対する責任感や探究力を身につけるよう努力をしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

2 教育関連法規を学び、教員の社会的責務に関する理解を深め、信頼される存在を目指し、確かな判断力をもって行動しようとしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

3 教育等に係る最新情報に常に触れ、課題意識を持つようとしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

4 自主的に学び続ける努力をしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

実践的指導力

5 新たな学びを展開できる実践的指導力を身につけるよう研修に励んでいる。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

6 生徒指導、学級経営等が機能し、教科指導を的確に実践している。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

7 リスクマネジメントの能力を身に付けようとしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

教材研究・指導技術・方法

8 教科書の指導書に目を通している。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

9 教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

(中略)

ムード観

42 計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

43 授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

44 自らの授業の問題点を反省している。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

45 よいものや必要なものを学びまうとする意欲と謙虚さを持っている。
 もう一歩 おおむね達成 十分達成

集計結果を見る

各設問を集計し、レーダーチャートで表示する。

教員ポートフォリオシステム

→ユーザー情報変更 →ログアウト

ホーム
ユーザー管理
お知らせ管理
教師力診断質問管理
マスタ管理

ポートフォリオ
教育実践歴
研修歴
資格、社会活動歴
校務分掌と学外での役割
生徒指導歴(含む保護者対応)
週案作成
教員履歴

教師力診断
行動目標設定
教育実践データベース

教師力診断

年数 1~4年目

教師力診断結果

感想

教科の専門性を高めたい。
同僚性を高めるために、もう少しいろいろな先生に自分から話しかけてみたい。

結果を保存 戻る

→お問い合わせ →ヘルプ →サイトマップ →プライバシーポリシー →XOOPS管理

↑ページの先頭に戻る

Copyright © 2017 All Rights Reserved.

- 年数…診断対象の年数を表示。
- 感想入力…診断結果に対する感想をテキストで入力する（任意入力とする）
- 結果を保存…診断結果をデータベースに保存する。
※保存することで、教師力診断システムのトップページの一覧に表示される。
- 戻る…結果を保存せずに教師力診断システムトップページに戻る。
※「保存」しない場合、データは破棄される。

IV. 教育実践情報共有システムの改修

○J T型の課題探究研修が実践できるよう教育実践情報共有システムの改修を実施した。特に、教材研究並びに指導案作成時に、検索した URL が貼りつけられなかったことと、各自が作成した指導案を公開して同僚性を発揮して○J Tの検討会ができなかったことなどを改善し、効率的に研修ができるようにした。

(1) トップページデザイン変更

タイトルを「教育実践データベース」ひらめき 先生のひろば」に変更し、より親しみやすく、サイトの目的を端的に伝えるよう工夫した。

[改修前]



[改修後]



(2) 「みんなに聞く」機能改修

現状の「みんなに聞く」機能は掲示板形式で、各教科ごとに自由入力で質問を投稿し、これに対し任意の閲覧者が回答する方式となっているため、自由度が高い分、どのような質問を投稿すればよいかわかりにくいため、あまり有効活用されていないのが現状である。

そこで、ターゲットを作成された「指導案」の評価、コメントに絞ることで投稿に対する敷居を下げるとともに、本システムの最大の目的である指導案作成力の向上の補助機能とした。

[改修前]

The screenshot shows the forum interface with a table of posts and a category sidebar. The table has columns for Title, Category, Access Count, Post Count, Last Post, Recommendation Points, and Status. The sidebar lists various subjects like Japanese, Social Studies, Math, Science, etc.

タイトル	カテゴリ	アクセス数	レス数	最終投稿	あなたへのお奨め度	状態
初任研2年次研修お疲れ様でした。	その他・役立つ情報	88	6	2013.09.04	0pt	
本日の初任研お疲れ様でした。	その他・役立つ情報	82	0	2013.06.11	0pt	
黒坂netについて	その他・役立つ情報	57	0	2013.05.28	0pt	
長野市初任者研修 訪問支援 その1	その他・役立つ情報	207	1	2012.11.21	0pt	
テスト	社会	90	1	2012.10.16	0pt	
テストピック【削除済】	国語	2	1	2012.10.09	0pt	
テスト2【削除済】	算数・数学	2	0	2012.10.09	0pt	
雪国のくらしの互恵【削除済】	国語	5	7	2012.10.09	0pt	

教材研究などで検索したりした情報は、別登録になっていた。

タイトル	属性	登録者	更新日	あなたへのお奨め度	みんなのお奨め度
ペットボトルリユース実現のための課題	その他,総合	八木俊充	2014.03.12	0 pt	0 pt
容器リサイクル 価格比較	その他,総合	八木俊充	2014.03.12	0 pt	0 pt
教育実践集 EDUPEDIA	小1,小2,小3,小4,小5,小6,中1,中2,中3,その他,国語,社会,算数・数学,理科,生活,音楽,図工・美術,保健体育,道徳,技術家庭,英語,総合,その他・役立つ情報	小山茂喜	2013.06.13	0 pt	0 pt
黒板ネットの説明	その他,その他・役立つ情報	サイト管理者	2013.05.28	0 pt	0 pt
サイエンスマツズ	小1,小2,小3,小4,小5,小6,中1,中2,中3,国語,社会,理科,生活,道徳,技術家庭,国際理解教育,環境教育,情報教育,食育,キャリア教育,その他・役立つ情報	サイト管理者	2013.05.28	0 pt	0 pt

[改修後]



公開済み指導案一覧

公開された指導案が閲覧できます。内容についてご意見や感想をお願いします。

タイトル	登録者	属性	更新日	コメント数
輸入食品の安全性	山田太郎	小1,理科	2014.02.14	2
面積	長野花子	小4,算数	2013.9.13	6
見えるとは	矢島信	中1,理科	2013.11.14	13
What' this	小林和子	小5,外国語	2013.11.22	20
音読をしよう	飯綱登	小2,国語	2013.12.3	3
かさこじぞう	林大樹	中1,音楽	2014.1.25	1

「みんなに聞く」指導案詳細ページ

タイトル: 輸入食品の安全性【非表示】 印刷

本時のねらい: 食品が輸入される過程を学習して輸入品の安全性を知る!

主な活動	発問	児童・生徒の反応	素材	コツ・アイデア	追加資料
導入	店にある輸入品をあげてみる。 値段の高い国産と、やすい輸入品				
展開	1.輸入食品が日本に来るまで				
	2.ばなな				
	3.輸入品の安全				
まとめ					

● 評価の観点:

コメント投稿欄

投稿済みコメント表示

コメントする:

コメント

投稿者: 山田花子
2013/12/1 20:30

XX
XX

(3) 教育実践情報共有システム基本構成

① 機能一覧

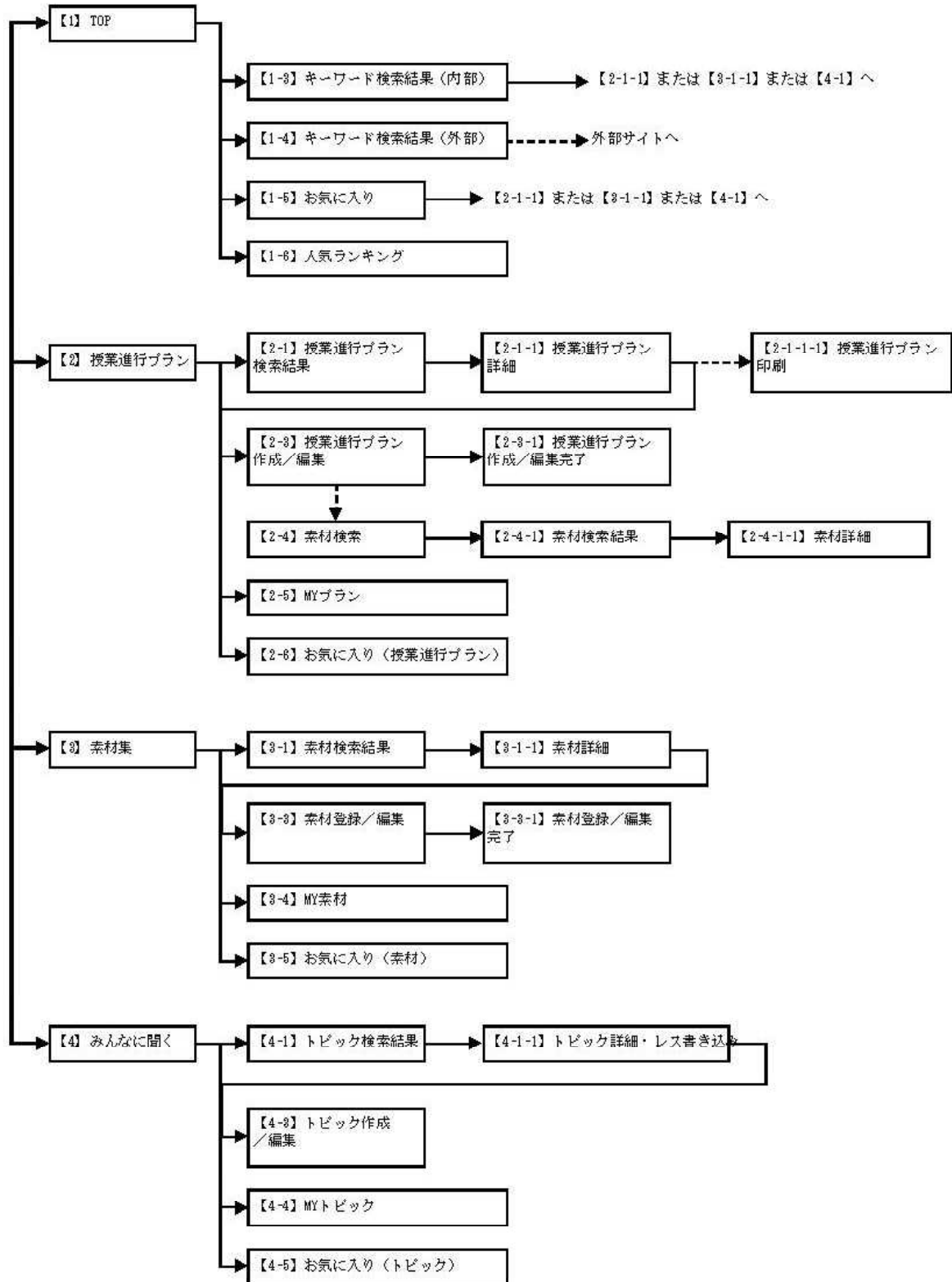
×:アクセス・利用不可 ○:利用可

機能名	内容	アクセス権限		
		一般 ユーザ	登録 ユーザ	管理 ユーザ
授業進行プラン	検索・参照	○	○	○
	検索時のMY属性・登録・編集・お褒め投票・お気に入り登録	×	○ (自登録のみ編集可)	○
素材	検索・参照	○	○	○
	検索時のMY属性・登録・編集・お褒め投票・お気に入り登録	×	○ (自登録のみ編集可)	○
みんなに聞く	検索・参照	○	○	○
	検索時のMY属性・トピック作成・レス返答・ベストアンサー登録・お気に入り登録	×	○ (自登録のみ編集可)	○
.gnl.d ハ	キーワード検索	○	○	○
	お気に入り	×	○	○
	ニュース	○	○	○
	新着情報	○	○	○
	お褒め情報	×	○	○
	お褒めランキング	○	○	○
	サイトからのお知らせ	○	○	○
ユーザ登録	自身によるユーザ登録	○	○	○
	自身による既登録のユーザ情報編集	×	○	○
静的ページ	「はじめに」「よくある質問(ヘルプ)」「サイトマップ」「利用規約」「個人情報保護法新」「お問い合わせ(メールアドレス)」の表示	○	○	○
	上記の登録	×	×	○
管理メニュー	ユーザ管理	×	×	○
	キーワード検索URL管理	×	×	○
	マスタ管理	×	×	○
	アクセスログ	×	×	○

② サイトマップ

■登録ユーザの場合

- : タブ切替
- : ページ移動
- - - : 別ウインドウポップアップ



※細部にわたる設計変更については、資料参照

IV. 授業分析用教材の作成

指導法にかかわる研修として、授業記録の分析を行い資質向上を目指すデジタルコンテンツを作成するため、長野市教育センターの研究指定の公開研究授業中心に授業を収録し教材を作成した。

(1) 授業分析のための手引きについて

ビデオに収録した授業記録を分析し、自分の授業設計に生かすための研修教材として、記録された授業をみながら、授業の中に潜む「技」と教師の意図を抽出し、授業を振り返り、授業を再構成するという授業研究（分析）のための手引きを作成した。

この教材を活用した研修を受講することで、日々の授業実践についてのリフレクションが容易に実施できるようになることが期待され、同僚性を発揮した校内研修並びに自主研修が充実され、教師の資質向上に生かされると期待される。

(詳細は次頁)

(2) 授業記録について

長野市教育センターの研究指定研究授業を中心に、小学校2年国語「なりきり音読げきをしよう」、小学校5年社会「自然災害を防ぐ」、小学校6年国語「言葉は動く」、中学校1年数学「変化と対応」、中学校2年国語「いにしえの心を訪ねる仁和寺にある法師『徒然草』から～兼好法師の価値観を捉えて論じよう」を収録した。

指導案等については、資料参照。ビデオは、DVDに収録。

授業にかかわる私の教育観を確認してみよう

自分自身の振り返り

1. 成長する教師を目指して

日々の授業実践において、教師にとって重要な位置を占めている教育にかかわる技は、これまで主に教育実習、授業参観、校内研修あるいは研究会を通じて、さまざまな形態で、教師から教師へと引き継がれてきました。その意味では、教育技術というの是一个人ひとりの教師が個人的に習得していくノウハウであるともいえますが、複雑化する教育現場の実態を考えると、多くの人のノウハウを共有することが、教育現場が抱える課題を解決するのに大切であると同時に、よいものを磨き上げていくことで、一人ひとりの教師の授業実践力が向上するとともに、教師集団の授業実践力も向上し、結果的に、児童・生徒の生きる力を育成につながります。

そう考えると、一人ひとりの教師が教育にかかわる技を磨き上げるということは、同僚性が一番発揮される場ともいえ、そこで重要になることは、教師自身の伝達能力、つまり、自分の経験をどのように記述するか、どのように伝えるかが重要になるというわけです。

文章や言葉になりにくい個人の知識である経験知や、暗黙知と呼ばれている知識を、他者に正確に伝達するための明示知に変換し表現できることが求められます。

そこで、この研修では、授業という日常の教育実践を題材に、知識伝達の方法を明確にして、お互いの経験をスムーズに交流し、自分の実践に活用することができるようになるための演習を行い実践力を高めていきます。

授業研究はこれまでも数多くなされていますが、一人ひとりの教師にその成果が十分に活かされていない状況もあります。この演習では、そこでまずお互いの教育にかかわる技について未熟であっても、あるいはすでに熟達していても、自分の経験を紹介しながらお互いに学びます。

つまり、お互いがもっている技・知識・技能などを、相互に活用しながらチーム学習を進めることで、自分自身の実践にどのように活用するかを考えていくこととなります。

ここで重要なことは、教育にかかわる技とは、単なる技術（テクニック）ではなく、実践を通して自らの学習指導を批判的に改善できる専門的な（職能的な）技であるということをご共通理解しておくことです。

教育にかかわる技というと、教え方（技術）に意識が偏りがちですが、教科内容が複雑化し、さまざまな社会的課題が社会的要請として教育現場に課せられ、かつ、児童・生徒の実態も多様化し、地域社会や家庭での学びのあり方も関連づけなければならなくなっている現在の教育現場の状況では、単なる教え方（技術）の充実を図ることだけでは、諸状況に十分に対応することはできません。教師と児童生徒との相関の中での学びを設計し、実施し、管理し、評価できる技を磨き上げることが求められているといえます。

2. 自分の教育スタイルはどんなのかな

- ① 日々の授業実践で、意識することの少ない自分自身の教育スタイルを、確認してみましょう。

私は授業をどのようにみているか
私の授業観
私の教材開発法
私の授業設計ポリシー
授業の構成のポイント（授業を説明する）
授業の中で難しい感じたこと

- ② グループ内で、それぞれの項目について、話し合ってみましょう。

授業実践力アップのために 授業の技を見いだそう

授業実践力を向上させるために、授業分析と授業設計にチャレンジしよう。

- 授業分析…観察・記録・分析・解釈し、解決策を考える。
- 授業設計…思いつきのイメージ化し、具体的に計画し実施し、その成果を評価する。

これまでも、授業記録を作成しての授業研究は、体験していると思いますが、観点を少し絞り込んで、授業にかかわる技を自分なりに見つけ出してみましょ

教師と児童・生徒との間とのやりとりには、教師の意図がはっきりした行為と、教師がはっきりとした意図を意識せずとる行動とがあります。

行為：人が意図をもって行うこと
行動：意図が推測できなくも行い
として観察されるもの

そこで、「教える」という行為を分解してみると、
意図（教育目標：ねらい）を持って
内容（教材観：教科・領域）を研究し
（児童生徒の）認識（児童・生徒観）がどのような状態化を把握し、
（具体的事例の選択）の判断（指導観）をし、
行動（指導）する。

となり、教師の授業実践力は、この意図、認識、判断、行動にかかわる技を意識することでアップしていきます。

これら技にかかわる場面と力量は、教師自身が主導しながら教える力量と、児童・生徒が中心になって展開する学習を設計・実施・評価する力量とに分けて考えることができます。

そこで、用意された授業ビデオを視聴し、グループの何人かで
教師の視点からみたときの指導内容のを記述
生徒の視点からみたときの学習過程の記述
教科内容を知識の要素に分解した記述

の3観点で授業を分析して、学ぶべきことと、解釈し改善したいところを明確化し、議論することで、授業実践力の向上を目指しましょう。

授業の記録は、発問・板書・指示・発言・活動・その他といった一般的な観点（場面）でチェックしていきましょう。

それぞれの場面で、教師のどのような技が反映されているのかを考察することで、教師の意思決定のあり方を探ることができます。

教師の意思決定は、教師一人ひとりの教育観もしくは教育理念によって異なってきますが、そのような考え方に立てばとか、このような場合にはといったように、他の先生の授業を特定性のもとで観察するのではなく、自分がもしその場にいたらどのような意思決定をするだろうかという具体的な解釈論へと進み、実際に自分の授業実践にも活用できる分析へと内容が具体化していきます。

①技にかかわりそうな、外観に見えている教師や児童生徒の発言や行動などを、ビデオを見ながら表に記述する。(記録が追いつかない場合は、空欄にしておく)

時間	対象	行動(場面と発言など)	行動コメント
1,03	T	板書 「学習課題」	
2,05	T	発問 たとえば?	
3,35	T		
4,25	S	発言 資料を見て〇〇と考えました	
6,40	T	発問 その考えに賛成の人は?	
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
7,13	S		
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

②表を見て、授業展開のまとまりを見つけ出し、異なる展開の場面に境界線の区切りをつける。

時間	対象	行動(場面と発言など)	行動コメント
1,03	T	板書 「学習課題」	
2,05	T	発問 たとえば?	
3,35	T		
4,25	S	発言 資料を見て〇〇と考えました	
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
6,40	T	発問 その考えに賛成の人は?	
7,01	S	……	
7,13	S	……	
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
9,13	S		
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~

③記録をみて、なぜそのような言動をおこしたのかの解釈や、その場面での意図などの補足の説明を「行動コメント」欄に追記する。

(例：単語が理解できていないので確認している)

④「行動」欄が空欄となっている場合、記録や解釈を手がかりにしながら追記したり、記述されている場面など、必要に応じて書き換える。

⑤効果的な教師の活動（作戦）と児童・生徒の反応といった対応関係や、こうすればもっとうまくいくといった部分を選び、まとまりをもつ一連のデータをグルーピングし、そのグループに名前をつけ（ラベル化）、いくつか重要なグループを選ぶ。

時間	対象	行動（場面と発言など）	行動コメント
1,03	T	板書 「学習課題」	問題意識を明確にするため
2,05	T	発問 たとえば？	気づきを具体化しようとしている
...	...	...	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">ゆさぶり</div>			
4,25	S	発言 <del>資料を見て</del> 〇〇と考えました	自分の言葉で説明
6,40	T	発問 <del>その考えに</del> 賛成の人は？	関連性を意識
		...	

ラベル化は、以下のキーワードを参考にしながら、その状況を的確に示す言葉で記述する。(行為と行動を組み合わせたり、新たなキーワードを考えてもよいでしょう)

教師の行為（意図）から	教師の行動から
1 思考要求	A 学習課題の提示
2 ゆさぶり	B 情報の提示
3 拡大要請	C 資料提示
4 視点の転換	D 実験・実習
5 焦点化	E 観察
6 掘り下げ	F 発問
7 確認	G 発問の繰り返し
8 想起	H 問いかけ
9 まとめ	I 問い返し
10 評価	J 指名
	K 行動の指示(話し合い)
	L 作業の指示(書く, 描く, 作る)
	M 助言
	N 説明

	O 言い換え
	P 例示
	Q 励まし
	R 沈黙
	S 確認
	T 受容
	U 評価

⑥ポイントとなりそうなグループを3つ以上選んで、それぞれについて以下の4つの視点でデータカードを作成する。

- 技 : 教師や設計者の意図や目的
- 効果 : 技の機能の説明
- 使いどき : 効果を発揮する場面の手がかり
- 具体的行動 : 外部から観察可能な行動

データカードの例 (教師に視点を当てた場合)

技	思考要求の発問
効果	数名の児童が複数の視点から気づいたことを持ち寄って話し合いに参加してくる。
使いどき	児童の視点が提示資料の内の情報に限定されていて広がらないとき
具体的行動	発問 「これでは失敗します。なぜでしょうか？」

指導カード

データカードの例 (子どもに視点を当てた場合)

技	再構成の説明
効果	学んだ知識と自分の知識を関連づけて納得できるようにする。
使いどき	さまざまな知識がいくつかそろい整理が必要なとき
具体的行動	自分の言葉で説明する 「～から、私は〇〇だと考えました。」

学びカード

⑦作成したカードをカテゴリーごとに分けて、整理する。

※技 と 具体的行動 の関係

「( 技 ) のために ( 具体的行動 ) した」と説明できるような関係

例：ゆさぶるのために情報を提示した

技                      具体的行動

指導カードを整理した例

技	効果	使いどき	具体的行動
承認	生徒が話に耳を傾ける，自信を持って取り組む	行動が停滞しているときや活動のあと	オウム返しする，フィードバックする
制約外し	生徒が自由な発想でたくさん発言する	発想に限界がみられるとき	仮定する  「もし失敗しないとしたら」
焦点化	時間を有効に使いながら議論が十分深まる	議論の視点が拡大してまとまらないとき	優先順位を示す，論点を示す

学びカードを整理した例

技	効果	使いどき	具体的行動
気分転換	エネルギーがチャージされた状態で行動できる	思考が煮詰まったとき	体を伸ばすく席を立つ
刷り込み	しばらく記憶していただける	試験前等、完全に覚えたいとき	繰り返す
逆算	最も効率よく、無理せず完了できる	課題が山積みになっているとき	優先順位を示す

⑧ここまでの作業作成したカードを、チーム内で紹介し合い分析しましょう。

※解釈の例

[行動を意図から解釈した分類]

沈黙	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業マネジメントを意図した沈黙</li> <li>2 児童による発言内容の訂正を意図した沈黙</li> <li>3 疑問を持たせることを意図した沈黙</li> <li>4 理解状態を観察することを意図した沈黙</li> <li>5 多様な考えを出させることを意図した沈黙</li> <li>6 主体的な構えをもたせることを意図した沈黙</li> <li>7 思考がまとまるのを待つための沈黙</li> </ol>
確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 他の児童の発言についての理解状態を把握することを意図した確認</li> <li>2 学習内容の理解状態を把握することを意図した確認</li> <li>3 発言内容の明確化を意図した確認</li> <li>4 話し合いの方向付けを意図した確認</li> </ol>
問いかけ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 詳しい説明を求めることを意図した問いかけ</li> <li>2 本音出させることを意図した問いかけ</li> <li>3 多様な考えを出させることを意図した問いかけ</li> </ol>
例示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 話し合いのスキルを獲得させることを意図した例示</li> <li>2 コミュニケーション連鎖を起こさせることを意図した例示</li> <li>3 意見をださせることを意図した指示</li> </ol>
受容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理的緊張感を解消させることを意図した受容</li> <li>2 まとめを意図した受容</li> <li>3 対立的な意見が出ることを意図した受容</li> <li>4 話し合いを方向付けることを意図した受容</li> <li>5 話題を転換することを意図した受容</li> </ol>
言い換え	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自由な参加を求めることを意図した言い換え</li> <li>2 話し合いを活性化させることを意図した言い換え</li> </ol>
指名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理解の変化を確認することを意図した指名</li> <li>2 注意を引きつけることを意図した指名</li> <li>3 他の児童への印象づけを意図した指名</li> <li>4 対立的な意見を出させることを意図した指名</li> <li>5 授業への参加を促すことを意図した指名</li> </ol>
説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理解を深めることを意図した説明</li> <li>2 反省を促すことを意図した状況説明</li> </ol>
資料提示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 理解を助けることを意図した資料提示</li> <li>2 説明の手段として使わせることを意図した資料提示</li> </ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発表の成就感を味わわせるための肯定的評価</li> </ol>

## 授業実践力アップのためにⅡ

### 授業を再構成してみよう

戦略的に授業を設計することができるように、発表などを通じて手に入れたさまざまなカードを用いながら、チームでビデオの授業の修正案を設計してみましょう。

①「教材カード」を作成する。(分担作業)

授業の最初から最後までを、ビデオで振り返りながら教材カード(設問内容や演習課題の内容やそのタイトルを記述する。できるだけ教材は具体的な形で表現する。)を作成する。

②指導カードと学びカードで、補足するものが必要な場合は、追加する。(分担作業)

どのような技が用いられていたのかを再度メモし、既存のカードと一致するか、不足しているものはないかを確認し、追加するものがあれば追加する。

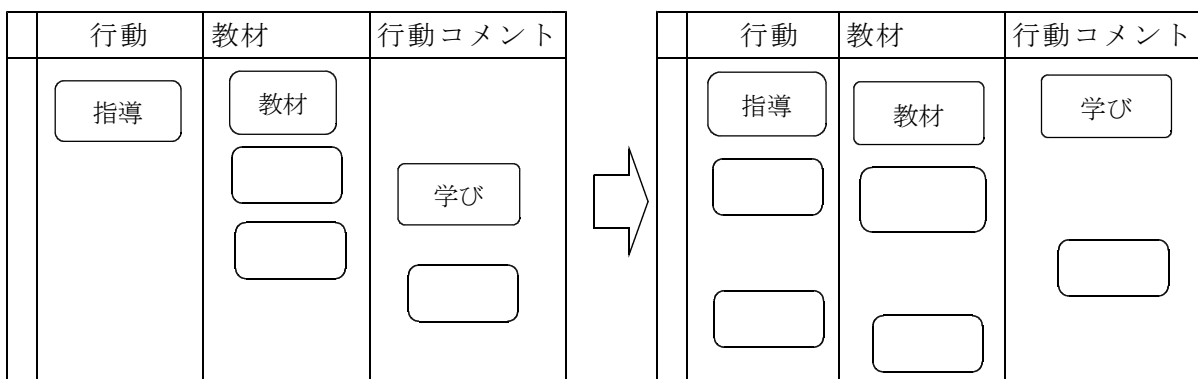
③作成したカードを並べて、授業を表現(再現)する。

④授業を分析して、こうすればもっとうまくいくというポイントに注目し、集めてきたカードなどを補ったり、カードの順序を変えたりしながら児童・生徒がより学ぶ力を発揮できるような作戦をたてる。

*同じカードが繰り返し使用される場合は、カードを複製しても構いません。

⑤修正前と修正後のカードの並びの違いと、変更による予測可能な効果を説明できるようにする。

授業の流れに沿って カードを並べながら展開を練る



どこの部分を、どのように変更したか。

変更したことにより、児童・生徒はどのように変化であろうか、説明する。

## 授業実践力アップのためにⅡ

### 自分の授業を振り返ろう

自分の授業を見返えすことが、授業実践力アップには、もっとも重要な方策になります。日々の業務に追われてしまうと、なかなか一つ一つの授業を見返すことができません。同僚の先生方に授業を参観していただく中で、自分のよさを伸ばし、改善すべきところを指摘してもらうことが容易な方法ですが、教師の意思決定との関係では、不十分です。

教師自身が、授業進行について困惑（戸惑う）した際の意思決定については、他者による授業参観からの指摘だけでは、なかなか改善することができません。「授業実践力アップのために」の方法を、自分の授業にも当てはめて授業分析をすることで、自分が何をしなければならないのかが、見えてくる可能性が大きくなります。

- ① 簡単な指導案を作成して、授業を実施する。
- ② 授業を実施している過程を、ビデオで記録する。
- ③ 研究するのは授業そのものではなく、授業で適用している自分の技やくせである。
- ④ 記録した資料から外観に見えている自分の行動を分析し、カテゴリーに分類する。  
児童・生徒はその行動をみて学習しているので、それを整理する。
- ⑤ 行動分類から授業を分析し、自分の意図と照らし合わせて解釈する。  
意思決定で迷った場面をメモしておく。
- ⑥ 解釈した結果を整理して、その結果を用いて再度分析する。
- ⑦ 指導のねらいとしているものを学習指導の技やくせとして整理する。
- ⑧ 技やくせは日常的に気軽に分析の対象として研究する。  
授業を公開した場合は、参観した先生に、気づいたところを簡潔にメモしてもらい、提出してもらう。
- ⑨ 日常的にいつもビデオ録画する必要はないが、メモをとっておく。
- ⑩ 判断したことを短文の命題として記録しておき、自分の授業の改善に役立たせる。
- ⑪ 自分の技やくせをフルに活用して、授業設計し、授業実践にチャレンジする。  
くせがマイナス要因であった場合は、くせを軽減する方策を考慮して、授業設計してみる。



# 資 料

# 研修体系の大枠

キャリアステージ		第 I 期(基礎形成期)				第 II 期(基礎力活用期1)	第 III 期(向上期1)	第IV期(向上期2)	第V期(充実期)
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年～9年	10年～15年	16年～20年	21年以上
内 容		必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	向上期に必要な知識及び技能の習得	充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能をの習得	充実期を前提とし、専門的な知識習得	
学習指導	段 階	担当学年や担当教科を中心とした研修と実践	学年や教科等の幅を広げた研修と実践	長野市教育大綱を意識した研修と実践	長野市教育大綱を意識した研修と実践	長野市教育大綱を意識した授業実践	長野市教育大綱の具現をめざした授業実践		
	重点活動	「1人1公開授業」「授業参観と分析」	「道徳研究授業」(1年次2年次合同)	「模擬授業研究会」(1年次3年次合同)	「模擬授業研究会」	「実践事例の紹介と参観」(1人1公開)	「教育大綱公開授業」(1人1公開) 3年次・5年研・10年研の授業参観と分析		
	授業設計 (含 キャリア教育)	○担当教科・学年・道徳の学習指導要領の目標および内容を概ね理解している。 ○単元を見通した指導計画が立てられる。 ○1時間の簡易指導案が作成できる。	○担当教科・学年・道徳に関する学習指導要領の目標および内容に沿った指導計画が立てられる。 ○問題解決的な学習展開の授業構想を立てることができる。	○担当教科・学年・道徳において、年間を見通した指導計画が立てられる。 ○一人で学習指導案(フル)を作成することができる。	○地域にある素材を自ら積極的に教材化しようとしている。 ○様々な学習形態を日常的・計画的に授業づくりに取り入れることができる。	○担当教科・学年・道徳に関する専門的な知識や技能を取り入れようとしている。 ○研究の仕方を理解して、研究の計画が立てられる。 ○教育大綱の理解をして授業構想が立てられる。	○校内研究のリーダーとなって、研究推進や計画に関わって指導できる。		
	授業実践	○子どもに分かる発問と板書を心がけている。 ○座席表に児童生徒の様子を記録しようとしている。 ○具体物や視覚教材を取り入れた授業づくりを意識している。	○児童生徒の学びのよさと課題を記録し累積しようとしている。 ○授業記録のとり方やまとめ方・考察の仕方が概ね理解できる。	○個人・ペア・グループ・全体など、目的や必要感に応じて、学習形態を変え、実践できる。 ○授業記録を基に、参観の視点、児童生徒の具体的な姿に沿って分析をしようとしている。	○導入・追究・まとめまでの時間設定を意識し、計画通りに授業の展開ができる。 ○児童生徒個々の実態に応じた授業展開を実践し公開する。	○児童生徒個々の実態に応じた授業展開を実践し公開する。	○長野市教育大綱と児童生徒の姿を結びつけた授業展開を公開する。 ○児童生徒の実態や求めに応じて、臨機応変に指導計画を修正することができる。		
	授業分析・評価	○評価規準を理解し、通知票を記入することができる。 ○日々の授業の板書を記録したり、ノートや学習カードを見返したりしている。 ○示範授業の参観や他の授業研修会への参加を通して、自己課題に活かしている。	○児童生徒の学習意欲につながる評価方法を具体的に意識している。 ○授業記録のとり方やまとめ方・考察の仕方が概ね理解できる。	○自らの視点を明確にして授業参観に臨み、授業記録を取ることができる。 ○授業記録を基に、参観の視点、児童生徒の具体的な姿に沿って分析をしようとしている。	○学習カードやノートの記述に対する助言や評価を日常的に継続し自己の授業分析に活かそうとしている。 ○自ら取り入れた授業形態の有効性について日常的にふり返ろうとしている。	○評価問題を自作し、客観的に評価をすることができる。	○評価に関わって研究推進し、校内に広めたり助言できる。		
学級マネジメント	段 階	学級経営の基礎理解と実践	事例に基づいた実践の振り返りと学級経営の計画	チーム支援の実践	チーム支援の実践	チーム支援の実践	ミドルリーダーとしての学級マネジメント	学年マネジメント	学校マネジメント
	児童生徒理解	○遊びを通して子どもたちと関わることができる。 ○学級の状態を把握する調査結果の見方がわかる。 ○学級内の人間関係づくりに有効なワークショップを体験する。	○遊びから見えてきたものについて事例検討する。 ○学級の状態を把握するための調査結果から支援策を考えることができる。 ○学級の状態に応じたワークショップを実践できる。	○子どもたちの変容に基づいて、その内面を分析することができる。	○カウンセリングマインドを理解し、児童生徒の気持ちに寄り添った支援ができる。	○カウンセリングマインドを理解し、児童生徒の気持ちに寄り添った支援ができる。			
	生徒指導	○いじめ・不登校の未然防止と早期発見について学ぶことができる。 ○いじめや問題が行動があった時の初期対応について知ることができる。	○いじめ・不登校対応の事例を研究する。 ○いじめや問題行動が起きた時に適切な対応をすることができる。	○校内でのチーム支援について理解し、対応できる。	○連携外部機関について理解することができる。	○自分の役割を理解し、チームで対応することができる。	○他機関との連携を図ることができる。	○生徒指導主事の役割を理解し実践できる。	○いじめ・不登校に関わる学校マネジメント
	学級経営 (含 地域・外部連携)	○学級経営の基礎基本が理解でき、実践できる。 ○家庭訪問、PTAの会議等で保護者と適切な対応ができる。	○適切な保護者対応について事例から学ぶことができる。 ○地域の教育資源について学ぶことができる。	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。	○学級の実態に応じた中核活動を用い学級経営に取り組むことができる。	○地域や保護者と連携した学習や活動の授業公開や地域での発表ができる。		
	安全管理 健康管理	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校安全マニュアルについて学び、理解することができる。	○学校事故の防止と安全対策について学び、対応することができる。	○非常時の組織的行動と役割等を理解し、適切に対応することができる。			
特別支援教育	段 階	特別支援教育の基礎理解と実践	特別支援教育の基礎理解と実践	特別支援教育の基礎理解と実践	特別支援教育の基礎理解と実践	校内チーム支援の実践	校外チーム支援の実践		
	特別支援教育の理解	○知的発達遅れの、発達障害児の基礎的理解をする。	○知的発達遅れの、発達障害児、その他の障害の基礎的理解をする。	○気になる子の保護者への伝え方を学ぶ。	○気になる子、障害児児童生徒に対する、支援計画の立て方を学ぶ。	○気になる子、障害児児童生徒に対する、個別の指導計画に沿った連携した支援について学ぶ。	○気になる子、障害児児童生徒に対する、外部機関との連携した支援について学ぶ。		
	特別支援教育の実践	○支援を必要とする児童生徒への個別対応を常に考えている。	○ユニバーサルデザインの環境づくり、授業づくりをする。 ○インクルーシブ教育を理解し実践しようとしている。	○気になる子の記録を蓄積し、記録をもとに、学校での気になる行動を保護者に伝える。	○気になる子、障害児児童生徒に対する、個別の指導計画を作成し、それをもとに支援にあたる。	○気になる子、障害児児童生徒に対する、個別の指導計画に沿った連携した支援を行う。(学年・特別支援教育コーディネーター等)	○気になる子、障害児児童生徒に対する、外部機関との連携した支援を行う。(特別支援学校、療育コーディネーター、福祉、医療、等)		
教師としての理念と責務	段 階	教師としての基本に関する研修と実践	教師としての基本に関する研修と実践	教師としての基本に関する研修と実践	教師として自己を高めようとする研修と実践	教師として自己を高めようとする研修と実践	確かな理念や哲学に基づいた研修と実践		
	法規・法令・懲戒	○教育公務員関係の法令や条例、非違行為と懲戒について理解している。 ○教育公務員としての、適切な挨拶や言葉遣い、身だしなみを理解し、進んで実践できる。	○体罰を中心とした懲戒について理解し、適切な指導ができる。	○個人情報保護や情報モラルについて理解し、適切な指導ができる。	○個人情報保護や情報モラルについて理解し、適切な指導ができる。	○法定研修や教員免許更新について理解している。			
	教育理念 教育哲学	○教職に対する強い情熱をもち、専門性を高めようとしている。 ○自分の理想としている教師像を模索している。	○教職に対する強い情熱をもち、専門性を高めようとしている。 ○自分の理想としている教師像を模索している。	○教職に対する強い情熱をもち、専門性を高めようとしている。 ○自分の理想としている教師像を模索している。	○教職に対する強い情熱をもち、専門性を高めようとしている。 ○自分の理想としている教師像を模索している。	○自分なりの教育理念を構築しようとしている。	○教育哲学に基づき、教師としてのこれからのあり方について考えている。		
	校務の遂行	○学校組織の一員として、校務の遂行について理解し、適切な処理ができる。	○学校組織の一員として、校務の遂行について理解し、適切な処理ができる。	○学校組織の一員として、校務の遂行について理解し、適切な処理ができる。	○職員会や学年会、教科会の意義を理解している。	○校務の適切な遂行が、学校運営を支えていることを理解している。			

研修体系に合わせた講座名		第 I 期(基礎形成期) 1 年 次	第 I 期(基礎形成期) 2 年 次	第 I 期(基礎形成期) 3 年 次	第 I 期(基礎形成期) 4 年 次	第 II 期(基礎力活用期 1) 5 年 ~ 9 年 向上期に必要な知識及び技能の習得	第 III 期(向上期 1) 10 年 ~ 15 年 充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能をの習得	第 IV 期(向上期 2) 16年~20年 専門的な知識、技能によりマネジメントをする	第 V 期(充実期) 21年以上 専門的な知識、技能をもとにして、高所からマネジメントする
学習指導	内容	キャリア ステージ	必要な基礎的・基本的な知識及び 技能習得						
	段階	担当学年や担当教科を中心とした 研修と実践 授業参観と分析	学年や教科等の幅を広げた研修 と実践授業参観と分析	長野市教育大綱を意識した研修 と実践 「模擬授業研究会」(1年次 3年次合同)		長野市教育大綱を意識した実践 「教育大綱を意識した授業 実践」	長野市教育大綱の具現をめ ざした一人一公開授業	教育大綱の具現のため のマネジメント	
学級マネジメント	内容	授業設計 (含 キャリア教育) 授業実践 授業分析・評価	・学習指導要領と教育課程の編成① ・教科書の内容を読んでみよう ・励みになる通知票の書き方 ・1時間の指導展開案の作り方  ・授業中の発問・指名・話し方の基礎 ・子どもが分かりやすい板書の工夫 ・ノートのとり方や指導はどうするの  ・示範授業を参観する時のポイント ・初めてのテスト作成(入門編) ・教育の情報化(基礎編)	・様々な評価の仕方を学ぼう。 ・校外学習を充実させるには? ・指導案の中身を充実させよう ・「学級活動」の指導と評価  ・学習指導要領と教育課程の編成② ・心に染み入る「道徳の授業」とは ・学習形態を工夫してみよう  ・評価に生きるテストやドリルを自作し てみよう(活用編) ・教育の情報化(活用編)	・「教育大綱」を知ろう。 ・10年目の先生の実践に学ぼう。 (「教育大綱」具現の公開授業の参 観)  ・フル指導案の作成にトライしよう ・実践「指導と評価の一体化」 ・学習形態の効果と問題点  ・年間指導計画を作成してみよう	・「総合的な学習の時間」の全体計画 の立て方を学ぼう ・どこまで理解している? 「特別活 動」  ・教材の収集、選択、分析力を高めよ う→自作教材のすすめ  ・ここで学ぼう「教育評価の在り方」	・「教育大綱」を意識して実践を深め よう。(10年経験者の授業の参観、公 開授業、実践事例の紹介等)  ・チームティーチングの活用と実践	・「教育大綱」具現を目指した授業 を公開しよう。(3年次・5年経験 者・10年経験者の参観)  ・校内研究を推進していくために	
	段階	学級経営の基礎理解と実践	事例に基づいた実践の振り返りと学級 経営の計画	チーム支援の実践			ミドルリーダーとしての 学級マネジメント	学年マネジメント	学校マネジメント
特別支援教育	内容	児童生徒理解 生徒指導 学級経営 (含 地域・外部連 携) 安全管理 健康管理	・学校教育目標を具現化しよう ・読んで楽しい学級通信の書き方 ・子どものサインを見逃さないようにす るには  ・子どもが生き生きと活動する学級集団 づくり ・遊びから見える子どもの心 ・ワークショップで学級が変わる!  ・保護者との連携を図った学級経営のコ ツ ・いのちを守る学校安全マニュアル ・事例に学ぼう「いじめ」「不登校」 ・その時どうする? 「問題行動」  ・発掘! 地域教材	・授業参観のアイデアを出そう ・教室の掲示板を有効に活用しよう ・どう見ればいいのか? 子どもの変容  ・基礎から学ぼう進路指導 ・チームで対応、「いじめ」「問題行 動」  ・やりがいを実感させる児童会や生徒 会運営 ・中核活動で学級がかわる	・今日からあなたもカウンセリングマ インド  ・「いじめ」「問題行動」外部機関と の連携で乗り切ろう  ・ストップ「学校事故」	・地域と保護者と学校と、スクラム 組んで子どもがのびる  ・チームで対応「その時やっぴいこ と、悪いこと」  ・非常事態、その時学校現場は! ?	・生徒指導主事の役割を理解 し実践しよう	・いじめ、不登校、問題行動 に関する学校マネジメント	
	段階	特別支援教育の基礎理解と実践				校内のチーム支援の実践	校外とのチーム支援の実践		
教師としての理念と責務	内容	特別支援教育の理解 特別支援教育 の実践	△気になる子の保護者への伝え方 連絡帳の書き方と学級だよりでの伝え方  △ユニバーサルデザインの環境づくり・ ユニバーサルデザインの環境づくり・ 授業づくり ・特別支援教育の制度について学ぼう	△気になる子への支援のワザ △発達障害児・生に合わせた教材作り  △先輩の教師の経験を学ぼう。 △教師としての自己管理(健康・時間 等) △学年会や教科会、職員会への参加の 仕方	●特別支援学級の理解と交流及び共同 学習の推進 ●発達障害の基礎的理解	△外部機関の理解と連携のとり方			
	段階	教師としての基本に関する 研修と実践		教師として自己を高めよう とする研修と実践		確かな理念や哲学に基づいた研修と 実践			
法規・法令・懲戒 教育理念 教育哲学 校務の遂行	内容	・キャリアプランを立てよう ・年度末学級事務にはどんな仕事がつ ているのか ・これだけは理解しておこう! 『教育公務員』の服務と義務  ・『先生』になるってどういうこと? ・教師『4つの心得』 挨拶・身だしなみ・マナー・言葉遣い  ・自分も一員『学年会・教科会』	△「体罰と懲戒」を中心に、適切な指導 の在り方の理解 △校務分掌の種類には何があるの △校務分掌を確実に遂行するコツ  △校務における自己課題発見	△個人情報保護や情報モラルはどう するの  ・教育課題の解決に向けた取り組み →環境教育・教育の情報化・国際化・ 帰国・外国人児童生徒への対応	●高い倫理感を持つには △教師としての自己を見返そう(日頃 の言動・対人関係・私生活等)	△教育哲学をもとにした自分の生き 方振り返ろう ●他の教師への助言や協調のあり方 はどうするの			
	段階								

## 研修内容と研修形態との関係

●:集合研修    △:校内研修    □:自主研修    ◎:教育会

	キャリアステージ 内 容	第 I 期(基礎形成期) 1 年 次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第 I 期(基礎形成期) 2 年 次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第 I 期(基礎形成期) 3 年 次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第 I 期(基礎形成期) 4 年 次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得
		担当学年や担当教科を中心とした研修と実践 「訪問支援授業」(1人1公開)	学年や教科等の幅を広げた研修と実践 「道徳研究授業」(1年次2年次合同)	長野市教育大綱を意識した研修と実践 「模擬授業研究会」 (1年次3年次合同)	
授業設計	学習指導要領の理解	●□学習指導要領の理解 ・担当教科・学年の総説、目標及び内容 ・道徳の総説、目標及び内容	●□学習指導要領の理解 ・担当教科・学年の教科等の指導計画の作成と内容の取扱い	●□指導要領と長野市教育大綱の関連性	□学習指導要領と教科書の関連性
	指導案作成 カリキュラム作成	●△指導案作成 ・発問計画と板書計画	●□様々な指導法による展開の理解 ●□問題解決的な学習展開	●指導案作成と評価方法 ●年間指導計画とカリキュラム作成 □子どもの意識に沿った問題解決的な学習展開	●□研究授業と指導案作成 ●年間指導計画とカリキュラム作成
	教科書・指導書の理解	●△教科書や指導書などの内容の理解	●□教科書や指導書に沿った学習展開	●□教科書や指導書の分析・吟味	□学力定着が困難な場面の把握
	教材開発		●△□学習カードの作成と板書の連携 ●素材・教材・教材化の違いについて	●□児童生徒の実態に合った学習カード作成	□教科書以外の素材の価値の理解
	児童生徒の実態把握	●△児童生徒の既習事項の把握	●□既習事項と学びの傾向性(特性)の把握	●□個別学習の指導方法	□様々な学習形態の把握と指導
	キャリア教育の推進	●キャリア教育の理解	●キャリア教育実践のポイントの理解	△キャリア教育の4能力を意識した授業づくり	△キャリア教育の4能力を意識した学級づくり
授業実践	場面構成	●△課題把握場面の指導の工夫	●課題把握と追究場面の指導の工夫	●□まとめの場面の指導の工夫	□ねらいを見届けの授業授業 ・展開、及び、無理のない時間設定
	発問・板書の実際	●△計画に沿った発問と板書	●□中心発問と間のとり方、つなげ方 ●□板書用カード等の活用	●□話し合い指導の基本の理解	□個、ペア、グループなどの学習形態に応じた追究方法
	教材提示・教材活用	●△教材に応じた提示方法の工夫 ・dbookproや書画カメラの活用	●□デジタル教材の活用	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法
	児童生徒理解と評価	●△座席表への記録・累積 ●△ノートや学習カード分析による実態把握	●□座席表の分析 ●□児童生徒の学びのよさと課題の把握	●□つぶやき、表情、しぐさからの評価 ●□座席表からの個人カルテの作成	□個人カルテの分析 □児童生徒の学びの変容とその要因の考察
	危機管理	●△使用する教材・教具の危険性の想定	●□事故事例に基づいた事故発生時の基本対応		□小学校、中学校、特別支援学校における事故事例からの学び
授業分析・評価	学習成果の判定	●△基本的な評価方法と評価規準の理解、通知票の表記	□児童生徒の学習意欲につながる評価方法の理解、通知票表記 □テスト結果の分析と生かし方	●□児童生徒による自己評価を加味した意欲・関心・態度の評価	□児童生徒の授業感想やノートへの記述に対する評価・助言
	授業記録の分析	●△板書、ノート、学習カード等からの振り返り	●□授業記録のまとめ方と授業の考察	●□授業記録の分析による児童生徒の実態把握	□授業記録の分析による児童生徒の実態把握と指導改善の方向
	自己課題発見と授業改善	●△指導教員や校内の教員の指導・助言から課題と改善策を検討	●□児童生徒の学びの変容のとらえ方	●□授業分析の方法や分析の視点の理解	□授業分析の累積 □授業改善の日常化
	授業参観	△師範授業、授業研修会への参加	●□授業参観・研究会への参加(同学年または専門教科)	●授業参観・研究会への参加(同学年または専門教科)	●□授業者や児童・生徒の姿からの授業評価










研修内容と研修形態との関係




●:集合研修 △:校内研修 □:自主研修 ◎:教育会等外部研修

内容	キャリアステージ	第Ⅰ期(基礎形成期) 1年次	第Ⅰ期(基礎形成期) 2年次	第Ⅰ期(基礎形成期) 3年次	第Ⅰ期(基礎形成期) 4年次	第Ⅱ期(基礎活用期1) 5年～9年	第Ⅲ期(向上期1) 10年～15年
		基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	向上期に必要な知識及び技能の習得
		担当学年や担当教科を中心とした研修と実践 「訪問支援授業」(1人1公開)	学年や教科等の幅を広げた研修と実践 「道徳研究授業」(1年次2年次合同)	長野市教育大綱を意識した研修と実践 「模擬授業研究会」 (1年次3年次合同)		長野市教育大綱を意識した授業実践 「教育大綱授業」(1人1公開)	長野市教育大綱の具現をめざした授業実践 「教育大綱公開授業」(研究委員)
授業設計	学習指導要領の理解	●□学習指導要領の理解 ・担当教科・学年の総説、目標及び内容 ・道徳の総説、目標及び内容	●□学習指導要領の理解 ・担当教科・学年の教科等の指導計画の作成と内容の取扱い	●□指導要領と長野市教育大綱の関連性	□学習指導要領と教科書の関連性	●△□担当教科・領域の特性や意義、関連性、体系的の理解	●△指導要領に関わって説明、指導助言ができる
	指導案作成 カリキュラム作成	●△指導案作成 ・発問計画と板書計画	●□様々な指導法による展開の理解 ●□問題解決的な学習展開	●指導案作成と評価方法 ●年間指導計画とカリキュラム作成 □子どもの意識に沿った問題解決的な学習展開	●□研究授業と指導案作成 ●年間指導計画とカリキュラム作成	●△□自己課題の解決を図る指導案作成 ・子どもの意識に沿った学習展開	●□専門教科のカリキュラム作成 △□単元別時数の年間計画の立案
	教科書・指導書の理解	●△教科書や指導書などの内容の理解	●□教科書や指導書に沿った学習展開	●□教科書や指導書の分析・吟味	□学力定着が困難な場面の把握	●△教科書の学習展開をベースにした問題(課題)	△□教科書の違いを分析、教材観の確立
	教材開発		●△□学習カードの作成と板書の連携 ●素材・教材・教材化の違いについて	●□児童生徒の実態に合った学習カード作成	□教科書以外の素材の価値の理解	●△□素材研究方法の理解 ●△□デジタル教材の作成、開発(PPT等を用いて)	●△□地域素材の教材化や教材開発
	児童生徒の実態把握	●△児童生徒の既習事項の把握	●□既習事項と学びの傾向性(特性)の把握	●□個別学習の指導方法	□様々な学習形態の把握と指導	●△□児童生徒の実態に応じた手だてと学習	●□学習形態(一斉、個別、協働)の効果的な編成
キャリア教育の推進	●キャリア教育の理解	●キャリア教育実践のポイントの理解	△キャリア教育の4能力を意識した授業づくり	△キャリア教育の4能力を意識した学級づくり	●児童生徒のキャリア発達を意識した指導と授業公開(教科指導・学級経営等) △自己判断できる児童生徒の育成	●児童生徒のキャリア発達を意識した、単元づくりと評価、授業公開 △自己判断できる児童生徒の育成	
授業実践	場面構成	●△課題把握場面の指導の工夫	●課題把握と追究場面の指導の工夫	●□まとめの場面の指導の工夫	□ねらいを見届けの授業授業 ・展開、及び、無理のない時間設定	●△児童生徒の意識に沿った学習問題・課題の設定	●△児童生徒の意識のつながりと学習問題・課題設定
	発問・板書の実践	●△計画に沿った発問と板書	●□中心発問と問のとり方、つなげ方 ●□板書用カード等の活用	●□話し合い指導の基本の理解	□個、ペア、グループなどの学習形態に応じた追究方法	●△話し合いを促す発問と板書の工夫	●△話し合いを高めるための指導
	教材提示・教材活用	●△教材に応じた提示方法の工夫 ・dbookproや書画カメラの活用	●□デジタル教材の活用	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法	●□児童生徒をひき込む演示、提示方法	●△□体験や活動的な学びを大切に学習展開	●△□個別化、協働学習につながる教材提示
	児童生徒理解と評価	●△座席表への記録・累積 ●△ノートや学習カード分析による実態把握	●□座席表の分析 ●□児童生徒の学びのよさと課題の把握	●□つぶやき、表情、しぐさからの評価 ●□座席表からの個人カルテの作成	□個人カルテの分析 □児童生徒の学びの変容とその要因の考察	●△□授業の中で実態を把握する方法の理解 ●△□子どもの思考と教師の見方のズレの把握	●△□授業の中での評価と指導の一体化
	危機管理	●△使用する教材・教具の危険性の想定	●□事故事例に基づいた事故発生時の基本対応		□小学校、中学校、特別支援学校における事故事例からの学び	●△□事故防止の関係性の構築?	●△□授業において、事故防止を常に意識できる心構え
授業分析・評価	学習成果の判定	●△基本的な評価方法と評価規準の理解、通知票の表記	□児童生徒の学習意欲につながる評価方法の理解、通知票表記 □テスト結果の分析と生かし方	●□児童生徒による自己評価を加味した意欲・関心・態度の評価	□児童生徒の授業感想やノートへの記述に対する評価・助言	●△□授業中の達成度評価 △□テストの作成とテストの評価	●△□児童生徒の学習成果の判定と、児童生徒個々に応じた指導・助言
	授業記録の分析	●△板書、ノート、学習カード等からの振り返り	●□授業記録のまとめ方と授業の考察	●□授業記録の分析による児童生徒の実態把握	□授業記録の分析による児童生徒の実態把握と指導改善の方向	△□ビデオ視聴による児童生徒の実態の把握	□ビデオ視聴による児童生徒の実態の把握と指導改善の方向
	自己課題発見と授業改善	●△指導教員や校内の教員の指導・助言から課題と改善策を検討	●□児童生徒の学びの変容のとらえ方	●□授業分析の方法や分析の視点の理解	□授業分析の累積 □授業改善の日常化	●△□授業分析の考察からの課題・改善点の明確化 ●△□自己課題をもって、校内公開授業実践	●△□記録から学ぶ授業の質の分析と指導 ●△□準に達しない児童生徒への指導方法確立
	授業参観	△師範授業、授業研修会への参加	●□授業参観・研究会への参加(同学年または専門教科)	●授業参観・研究会への参加(同学年または専門教科)	●□授業者や児童・生徒の姿からの授業評価	●△□授業者や児童・生徒の具体的な姿に基づき、支援のよさや改善点の提示 ●△□児童生徒の学習評価結果や自身の授業評価をもとに、改善点を見出す研究	●△□教師間の同僚性を生かした授業研究
	授業の課題への助言	・教師の支援と児童生徒の学びの理解 ・他者の授業の課題への助言	□授業記録の記入と考察方法の理解(春期授業研修)	△□授業における子どもの発言等の記録と子ども理解	・授業記録のとり方と授業の考察③	・授業記録の分析④	・授業の成果と課題を整理し助言する ・授業参観する際の視点を身につける。
児童生徒との信頼関係づくり	児童生徒の認識に関する知識の理解	●◎学校教育目標と学級経営基礎 △学級開きの準備、4月の学級経営(係・目標など) △1日の生活 学活・給食・清掃の扱い ●学級づくりの基本的な考え方の理解	●学級経営の柱(中核活動の決めだし) △学期末のむかえ方、学校行事の運営 ●△問題行動が起きた時の生徒への指導		●学級経営の実際について、事例を持ち寄り事例検討、情報交換を行う	□児童や生徒の実態に基づいた活動の位置づけ方	□子どもと子どもをつなぐ教師
	児童生徒の理解と集団への活かし方	●いじめやけんかなど、集団内のトラブルを早期に発見する方法 ●児童・生徒の発達段階の理解と基本的な対応 △学級組織の理解(係決め、役割分担)	△いじめや集団内のトラブルにける児童生徒の背景にある要因分析 ●特別支援の児童生徒を中心にすえた学級づくり	◎指導上困難な児童生徒の対応と組織的取り組み	△問題行動事例に則した指導方法の理解と演習	◎子どものありのままの姿が出るインフォーマルな場づくりの方法 □児童・生徒の発達段階の理解と基本的な対応	
	児童生徒を理解し実践する	●学級の状態を把握するための調査結果の見方 ●各群の特徴と個への支援の在り方	△学級の状態を把握するための調査の事例を持ち寄り、児童生徒の具体を示して事例検討や支援策を考える	□個や集団の特質に応じた手だて △学級の状態を把握するための調査結果を活用した事例検討法の演習 □生徒の言動から見る生徒理解	□事例検討法から考えた対応策、支援策を実施してその結果を分析する	△学級の状態を把握するための調査結果から、実態に応じた集団づくりができる。 □特別に配慮が必要な児童生徒への個別指導の在り方の理解と実際。 □生徒指導に関する法令等、具体例を通して理解する。	□生徒指導に関する法令等、具体的な事例を通して理解する。 □学級の状態を把握するための調査を活用した事例検討
	児童生徒との信頼関係づくり	△教師として、子どもたちの遊びに参加する ●子どもの事実やそのときの教師の思いの記録の仕方 ●児童生徒を受容・共感する接し方	●「遊びの中から見てきたもの」「遊びを通して得たもの」についての事例研究 ●△事例検討会で、教室の姿とのズレや気になる子どもの姿を研究し合う	●△子どもたちと一緒に遊ぶ中で、変容を事例としてまとめる □教師のとらえと子どもの姿のズレについて考える。	●□遊びの中でとらえた子どもの姿を授業や活動などに生かす工夫を考える □児童生徒や保護者との面談の仕方	◎児童生徒の事実の記録作成、事実から思いや言動の傾向をとらえる □児童生徒の願いや保護者の願いを聞き取ることができる ●児童生徒や保護者との面談の仕方	



研修内容と研修形態との関係

●:集合研修 △:校内研修 □:自主研修 ◎:教育会等外部研修

キャリアステージ	第Ⅰ期(基礎形成期) 1年次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第Ⅰ期(基礎形成期) 2年次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第Ⅰ期(基礎形成期) 3年次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第Ⅰ期(基礎形成期) 4年次 基礎形成期に必要な基礎的・基本的な知識及び技能習得	第Ⅱ期(基礎力活用期1) 5年～9年 向上期に必要な知識及び技能の習得	第Ⅲ期(向上期1) 10年～15年 充実期として、発展向上を図り、専門的な知識及び技能を習得	
学級マネジメント	生徒指導の基本的な内容の理解と指導	◎●いじめ対応マニュアル研修 ●不登校の未然防止と早期対応	●いじめ対応事例研究 ●不登校対策事例研究	△支援会議への参加	◎△学校組織として取り組むいじめ・不登校対策の研究 ●外部機関と連携したいじめ・不登校対策の研究	□児童生徒と同じ立場で遊んだり、共に活動できることを位置づける。 □登校刺激のタイミングとその方法	
	子どもを理解するための諸検査	●人間関係作りのためのワークショップの理解・体験	●学級の状況に応じたワークショップのプログラミング ●個に寄せたワークショップのプログラミング	□ファシリテーターとしてのワークショップの演習	□学年の発達段階に応じたSGE, SSTの年間の計画を考える	・人間関係作りの実践事例から学ぶ ・弱い立場の子を活かす学級作り ・年間計画とクラスの実態に応じた計画案樹立	
	地域や外部との連携	●CS研修による基礎的な対応の理解		□地域と連携するための接遇の理解	□地域行事への自主的な参加	△内容理解とケースに応じた連携の在り方	
		△自校の教育活動を支える外部機関を知る		△チーム支援会議への参加			
			●地域や学校をよく知るポイントの理解	□情報の基本的な発信や収集	●地域や保護者と連携した学習の創造		●地域や保護者と連携した学習や活動の授業公開や地域での発表
	学級通信・保護者との意連絡	●報告、連絡、相談の行動とその理解 ・明らかな挨拶ができる。	△保護者からの要望への対応	△支援や特別な配慮が必要な児童生徒の保護者への基本的な対応のあり方		●不快な思いをさせない対応(来客、電話等)	
		●「学級・学年通信」の作り方「家庭との連絡帳」「生活記録」への対応についての理解 △保護者懇談、学級懇談会の運営、学級保護者役員との連携の仕方 △参観日 家庭訪問 三者懇談会等の意義と配慮自校の理解 ●学級・学年通信の役割や効果、作成上の配慮事項等の理解	△保護者との日常的な連絡のとり方	△学級懇談会や学年懇談会の基本の理解		△児童生徒についてのきめ細やかな情報交換 △授業参観や保護者会のねらいの理解	●相手の思いや願いに寄り添った対応
				△学級・学年通信の効果的な活用			
	学級経営等	△校務分掌の理解				△校務、生徒指導、教科指導、行事等の問題点や課題を発見し解決の方策の実践	
		●学級経営の基礎と基本の理解	△学級経営のあり方	△特別に配慮を要する児童・生徒の居場所づくり		●学級経営マネジメントの学びと学級経営力の向上 △中核的活動の進め方 △困難学級の組織的な支援	●学級経営方針に基づいた授業公開
△諸表簿に関わる内容と事務遂行上の留意事項を理解と適切な処理					△校務の意義等を理解し、問題点や課題に気づく △担当教科や学校の実態に応じた校務の処理の方法を理解し、処理できる。		
					●安全対策等のマニュアルの理解 ●非常時の組織的行動と役割等の理解と実践		
△学級経営の基礎理解と実践(清掃・給食・短学活等)		△部活動、児童会・生徒会、学校行事(宿泊学習、文化祭、運動会、音楽会、儀式)等の指導		△事故防止と安全対策			
支援特別教育	●発達障害の児童生徒の理解と支援 □ユニバーサルデザインの環境づくり・授業づくりの意識	◎気になる子の保護者への伝え方 ▲学級だよりでの伝え方	▲発達障害の児童生徒への対応(その子の特徴に合わせた支援方法の理解) □発達障害児・生に合わせた教材作り	◎発達障害の児童生徒に対する連携した支援(学年・特別支援教育コーディネーター・特理解)	●特別支援学級の理解と交流及び共同学習の推進 ●発達障害の基礎的理解	△外部機関の理解と連携の取り方	
教師としての理念と責務	段階	教師としての基本に関する研修と実践		教師として自己を高めようとする研修と実践		確かな理念や哲学に基づいた研修と実践	
	法規等の理解	●教育公務員としてのあり方と法令や条例非違行為について理解	△「体罰と懲戒」を中心に、適切な指導の在り方の理解	△個人情報の保護や情報モラルに関する理解	△法定研修と教員免許更新の理解 △児童・生徒の健康・安全面に關わる法規の理解		
	教育理念教育哲学	●教師としての理念の構築と責務の自覚 ●組織の一員として、適切な挨拶、言葉づかい、身だしなみ等の理解と実践			□先輩の教師の経験に学ぶ □社会人としてのあり方自己管理(健康・時間等)	●高い倫理観の構築と専門性の向上 △教師としての言動の振り返り	□教育哲学から学ぶこれからの自分のあり方
	校務の遂行	△学年・教科会等の一員として職務遂行	△校務における自己課題発見		△学年会や教科会、職員会の意義理解	△様々な校務分掌の種類と内容について理解と自己の役割の確実な遂行	●他の職員への助言や協力のあり方



